整理番号

D－2－1　　344

標 題 名

農事試験場報告第４号

害虫之部

著 者 名

発行者名

広島県農事試験場

発 行 年

明治３５

製作年月

平成２８年８月

日本博物學會圖書

明治三十五年三月

農事試驗場報告

第四號

害蟲之部

廣島縣農事試驗場

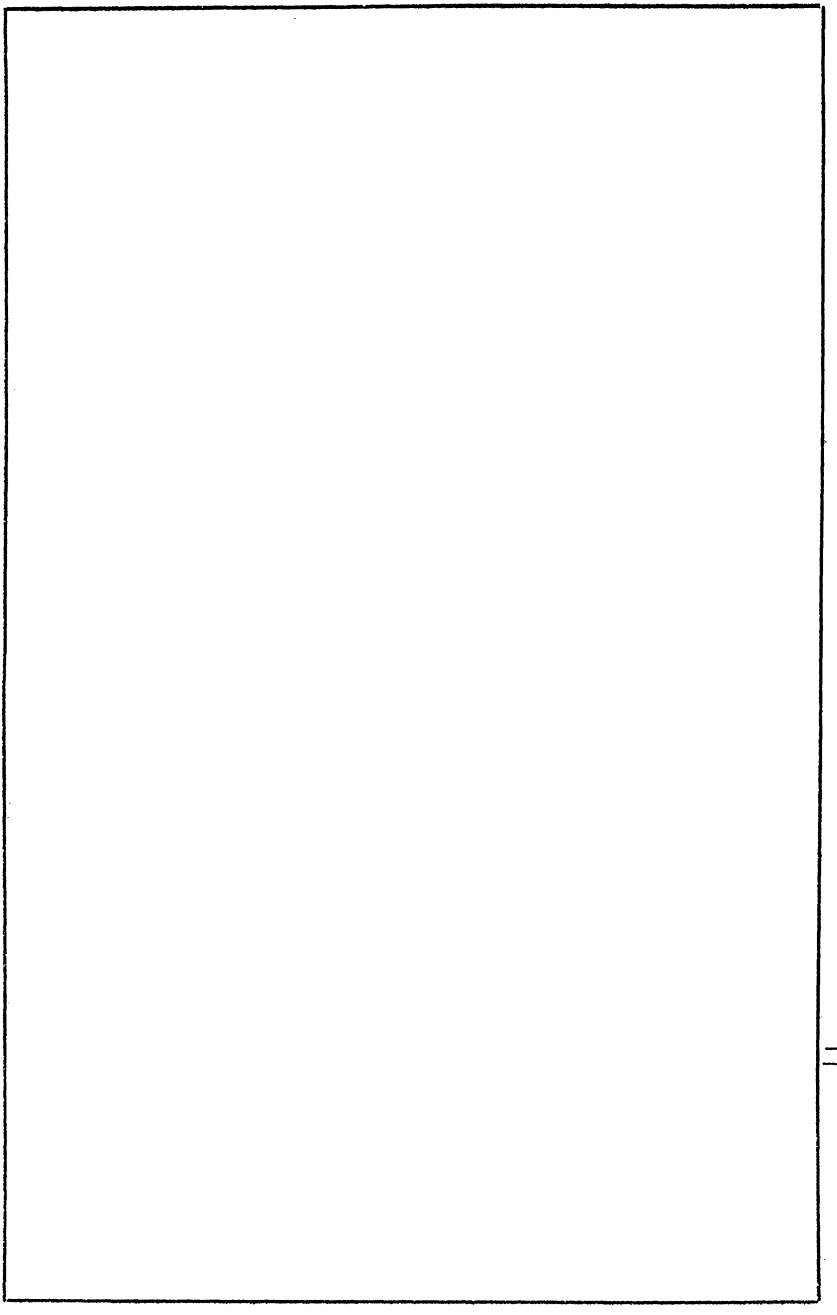
頁數	行數	誤	正
一	五（方言ノ下）	ところつこ ところをい	どろつこ どろをい
四	十二（方言ノ下）	しやこら かめむし	じやこう がめむし
五	四	三條	ニ一條
六	十四	介	令
七	九	接	捷
十	九	二三四	ニ三四
十一	三	脚	節
二十	二	開	關
二十五	八	横	橙
二十六	十一	丈	犬
二十九	十三	助	肋
仝	十四	各期トモ	冬期ト雖モ

頁數	行數	誤	正
三十三	一	以テノ下	ヽ字ヲ入ル
三十九	四	實況ヲ見	兆ナシ
四十三	四	何レモレモ	何レモ
四十四	十二	石鹼一斗液	石鹼液
四十六	四五	セリ セリ	セク セク
四十七	九	一坪平均本數	一株平均本數
五十六	表中	九七本 一〇九 六〇〇 一四〇〇	九七本 一〇九 一六〇〇 一四〇〇

本報ハ本場昆虫部ニ於テ試驗セル成蹟トス蓋シ昆虫ハ先ツ其習性經過ト之レカ驅除ノ方法トヲ試驗的ニ究メ後普通ノ田畑ニ對スル應用ヲ査定スルニアラサレハ判定ヲ下ス能ハサルコト常タリ而シテ是等判定ハ數年ノ研鑽ヲ待タサルヲ得サルコト多シ然ルニ該試驗ハ未タ年ヲ經ルコト尠ナキヲ以テ遺憾少ナカラス之レ等ハ重ネテ調査研究シ更ニ補ハントス希クハ既刊ノ報告ト對照シテ熟讀スルニ於テハ多少稗益スル處アラン乎

明治三十五年三月

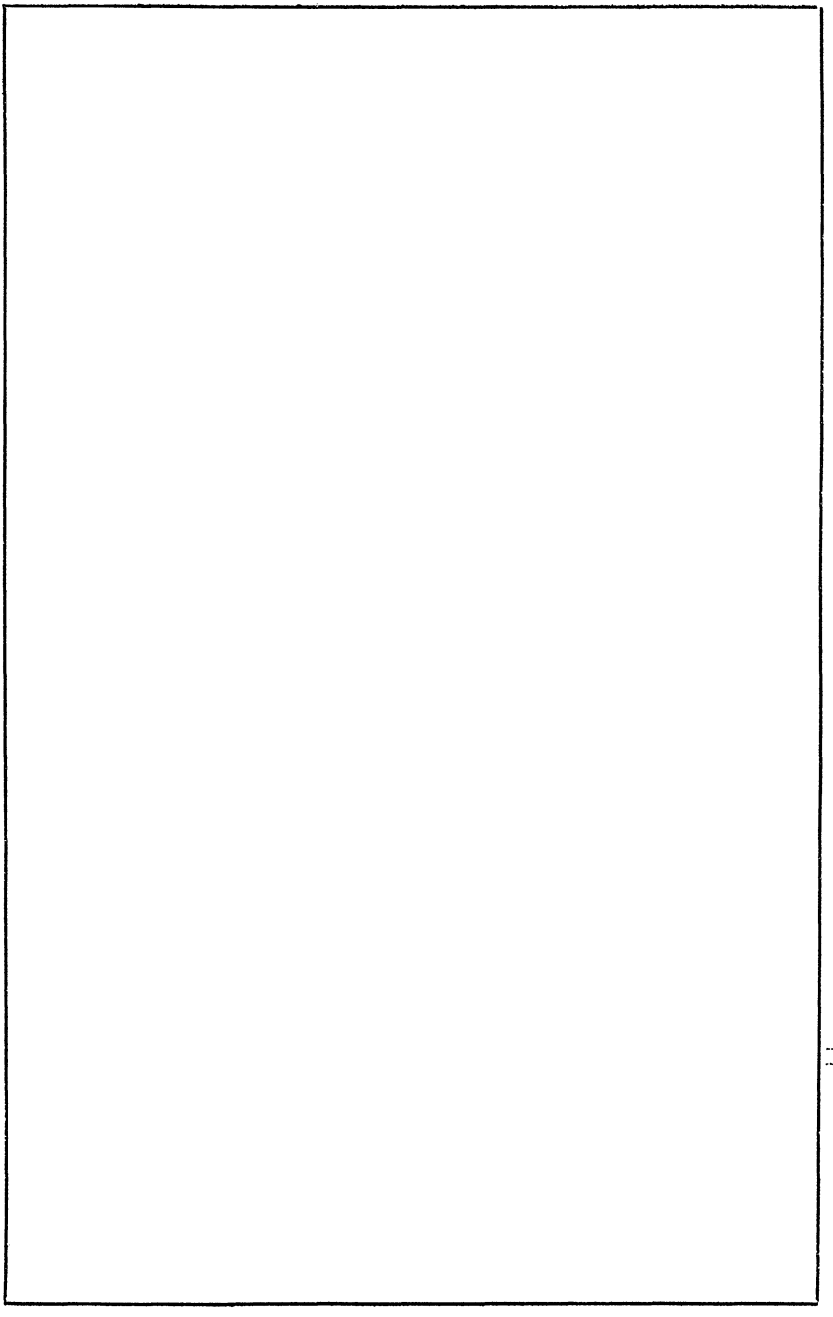
廣島縣農事試驗場



農事試驗場報告第四號（害虫之部）

目次

第一　泥負虫
第二　青椿象
第三　桑尺蠖
第四　桑金蛅蜥
第五　梅尺蠖
第六　松蛅蜥
第七　すじきりむし
第八　桑尺蠖寄生蠅
第九　蚜虫驅除劑ニ關スル調査
第十　二化性螟虫ノ習性ニ關スル調査



日本博物學會圖書

農事試驗場報告第四號（害虫之部）

一泥負虫（どろむし）

學名　Lema flavipes, Suff.

昆虫學上ノ位置　鞘翅目　金花虫料

方言　どろこ、とろつこ、とろをいむし

一被害作物　稻

一形態

○成虫

雌雄共ニ同色同形ナレトモ雄ハ雌ヨリ稍小ニシテ頭部ハ黃褐色ニシテ胸背ハ濃黃褐色ヲ呈シ翅鞘ハ光澤アル濃藍色ナリ觸角ハ複眼ノ間ヨリ生シ糸狀ニシテ長サ六厘許アリテ十一節ヨリ成リ莖節ハ最モ長大ニシテ柄節ハ最モ短縮セリ兩節共ニ黃褐色ナレトモ第三節ヨリ第十一節迄ハ稍同形ニシテ暗黑色ヲ呈セリ複眼ハ黑色ニシテ頭ノ兩側ニ凸出ス後翅ハ膜質ヨリ成リ灰黑色ニシテ透明ナレトモ

平常ハ鞘翅ニ被ハレテ現レス全體ノ腹面ハ濃黑色ニシテ微カニ白色ヲ帶ビ脚ハ前中両脚ハ同大ナレトモ後脚ハ著シク發達シ腿節ハ肥大ニ脛節ハ長シ何レモ其關節ニ於テ黃色ヲ呈シ其他ハ黑色ナリ第三跗節ハ明カニ二片ニ分技セリ

○卵

長サ二厘許ニシテ楕圓形ナリ色ハ淡黑ニシテ葉部ノ表裏共ニ四五粒ツヽ點々産付ス

○幼虫

紡錘形ニシテ能ク肥ヘ頭尾兩端ニ向テ稍々細マレリ頭部ハ黑色ニシテ稍々扁平ナリ老熟セルモノハ体長一分六七厘許アリテ其體ノ背面ハ淡黃褐色ヲ呈ス全面ニ黑キ短毛ヲ密生スルノミナラズ各節毎ニ明カニ十六個ノ黑班紋ヲ一列ニ横タヘ之レニ一本宛稍長キ粗毛ヲ生ス而シテ平常ハ體上ニ自己ノ排泄物ヲ背負ヘルニヨリ一見泥塊ノ附着セルが如シ是レ泥負虫ノ名アル所以ナリ

○蛹

蛹モ亦紡錘形ニシテ大サ一分二三厘アリテ色ハ橙黃色ナリ常ニ莖ノ接着セル處

(1) 成蟲
(2) 幼蟲
(3) 幼蟲被害ノ狀
(4) 蛹
(5) 被害作物

ノ株内ニ白色泡質ノ繭ヲ作リ其内ニテ蛹化ス故ニ一見恰モ一種ノ貝殻虫ノ附着セルモノノ如キ狀アリ

一經過習性

昨三十三年七月比婆郡高野山村及比和村ニ於テ採集セシ蛹ヲ飼育セシニ七月二十日羽化シタルモノハ七月二十五日頃ニ至リ産卵セリ此ノ卵ハ八月三日ニ孵化シタレハ漸次飼育ヲ進メタリシガ不幸ニシテ仝月十九日暴風雨ノ爲メニ飼育箱大破シ虫類其跡ヲ絶チタリシガ本年六月二十三日場内圃地ニ於テ三四ノ仔虫ヲ發見シタルニヨリ直ニ飼育ヲ繼續シタリシニ發育十分ナラズシテ遂ニ仝ク消失シ再ビ其飼育ヲ中絶スルノ止ヲ得サルニ至レリ而レトモ前後ノ狀況ニヨリテ考フルトキハ一年二回ノ發生ヲナスヤ明ナリトス其越年ノ狀態ハ未ダ明カナラズト雖モ成虫ニテ雜草等ノ間ニ潜伏シ越年スルモノヽ如シ

概シテ其性寒地ヲ好ミ雨量ノ多キ時ハ益々其害著シキガ如シ其喰害ノ狀ハ葉脉ニ沿フテ匍匐シツヽ葉綠層ヲ喰ヒ表皮ヲ殘スヲ以テ被害部ハ白色ノ條線ヲ存ス殊ニ稻葉ノ尖端ニ尤モ此ノ害ヲ蒙ルコト多シ

一驅除豫防法

未ダ調査研究ヲナサヽレトモ從來施行シテ効果最モ著シキモノハ左ノ如シ

イ、被害地ニ接セル畦畔ノ雜草ハ早春燒却スベシ

ロ、害虫發生シタル場合ニハ石油ヲ一反歩ニ付一升乃至二升ヲ注ギ害虫ヲ掃ヒ落スベシ而シテ該虫ハ容易ニ墜落スルモノナレバ効果多シ

ハ、徑一寸五六分長サ六七尺ノ竹ヲ二ツ割リトナシ而シテ節ヲ削リテ後チ繩ヲ以テ卷キタルモノヲ以テ輕ク稻葉ヲ掃ヒ害虫ヲシテ割竹ノ溝中ニ掬ヒ取リ落チタルモノヲ集メ殺スベシ

二青椿象（あをかいだ）

學名　Lygus lucorum, Mey.

昆虫學上ノ位置　有吻目　椿象科

方言　はとうどへひりむし　しやこらむし、どやく、かめむし

一被害作物　稻及菽類

一形態

○成虫

雌ハ全躰綠色ニシテ扁平ナリ體長五分五厘頭ハ細長ニシテ龜頭狀ニ突出シ其基部ハ前胸部ニ凹缺ス中胸部ニアリテハ其背面著シク擴張シ巾三分許アリト雖モ後胸背及腹背部ニアリテハ漸次ニ細マルモノトス而シテ頭部ノ中央ニハ頸三條ノ縱溝アリ複眼ハ胸部ニ接スル頭部ノ隅角ニアリテ灰黑色ヲ呈シ突出ス單眼ハ頭部ノ後緣ニシテ複眼ノ內側ニ二個アリ觸角ハ顏面ニアリテ複眼ノ前方ヨリ出テ五節ヨリナル而シテ其形鞭狀ヲナセリ莖節ハ最モ太クシテ短ケレトモ其他ハ殆ント同一ナリ色ハ第一第二節ハ全ク綠色ナレトモ第三節ノ上部ト第四第五ノ兩節ハ上半部ハ黑色ヲ呈シ下半部ハ黃綠色ヲナス口吻ハ四節ヨリナリ其色赤褐色ナリ長サ後脚ノ基部ニ達ス第二節ハ最モ長クシテ第四節ハ最モ短シ稜狀部ハ著シク發達シテ不等邊三角形ヲ爲シ殆ント腹部ノ後端ニ至ル而シテ稜狀部背面ノ後胸部ニ接スル處ニハ三個ノ小白點アリ又腹部背面ノ左右兩緣ニハ每節必ス一小黑色部アリテ恰モ斑紋ノ如シ腹面ハ扁平ナラズシテ船底狀ヲ爲シ少シク三角形ニ隆起セリ脚ハ前中脚ハ同大ナレトモ後脚ハ腿節脛節共ニ長ク跗節ハ二個

アリテ末端ニ一對ノ爪ヲ有ス

雄ノ體形ハ略ホ同一ナレトモ腹部ノ末端稍々尖レリ而シテ著シク異ナレル特徴ハ即チ複眼ノ前部ト前胸部ノ背面悉ク淡黃色ヲ呈シテ著シク他ノ部分ト其色ヲ異ニセルト稜狀部ノ三小白點ノ消失セルコト之ナリ

○卵

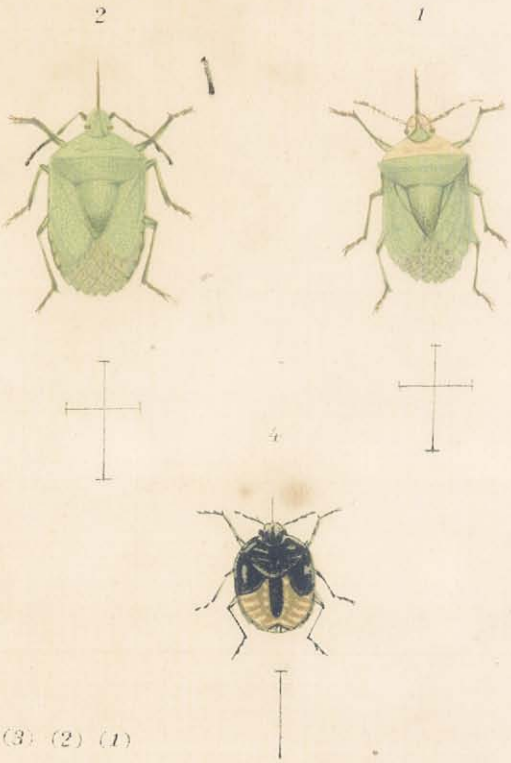
壺形ニシテ灰黑色ヲ呈シ直徑二厘許アリテ上端ニ口蓋ヲ具フ其產附ノ狀ハ作物ノ莖葉ニ二乃至三縱列ニ正ク二三十粒ヲ產付ス故ニ孵化後ノ卵殼ハ黑椿象ニ酷似ス

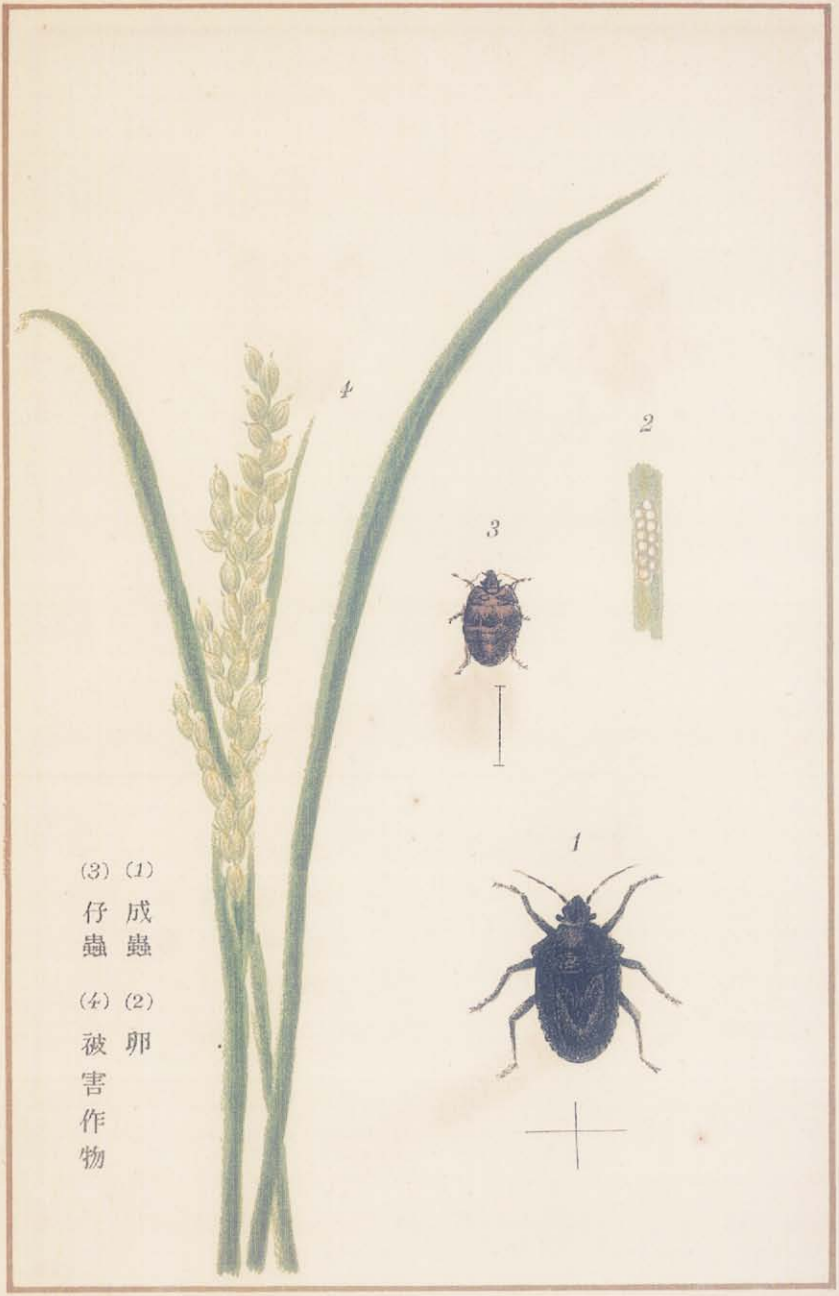
○仔虫

全體扁圓形ニシテ地色ハ漆黑色ニシテ胸部各關節ノ兩緣ニ沿ヒテ左右各四個ノ赤褐紋點在ス而シテ胸部ニ接スル腹部第一關節ノ背面ニハ四個ノ小白點ヲ四縱列ニ正シク有セルモ生育スルニ從ヒ消失ス

一經過習性

本年九月十一日佐伯郡高田村稻田ニ於テ一介虫ヲ採集シ飼育箱ニテ飼育セル經


2
1
4
(4) (3) (2) (1)
仔 卵 成 成
蟲 蟲 蟲
雌 雄
3



(1) 成蟲
(2) 卵
(3) 仔蟲
(4) 被害作物

過左ノ如シ

九月十一日	採集
九月十六日	第一回脫皮
九月二十三日	第二回脫皮
九月三十日	第三回脫皮
十月八日	第四回脫皮
十月十八日	羽化　蟄伏

因ニ記ス九月下旬豊田郡ノ某村ヨリモ稻田ニ此害虫發生ノ報告アリ又附屬農場ノ大豆圃ニモ發生シ成虫仔虫ノ混接セシノミナラズ一月上旬ニモ尙仔虫ノ生育セルヲ認メタリ如斯經過ハ一回ノ調査ニヨリ判定スベカラサルモ成虫ニテ叢間及石礫木片等ノ下ニ蟄伏シテ越冬スルガ如シ且ツ此害虫ハ著シキ惡臭ヲ有シ仔虫ノ時ニハ多ク群接シ作物ノ莖幹ニ附着シ養液ヲ吸奪ス而シテ微音ノ反響ニテモ忽チ墜落シテ四散ス成虫ノ飛翔力ハ微弱ニシテ遠方ニ達セサルモ歩行ハ極メテ迅速ニシテ遁逸ノ術巧妙ナリ

一驅除豫防法

未ダ調査セサレトモ概シテ黒椿象ノ驅除ニ適セル方法ヲ行ヘハ可ナルカ如シ

三桑尺蠖（しやくとりむし）

學名　Apocheima sp.

昆虫學上ノ位置　鱗翅目　樹尺蠖蛾科

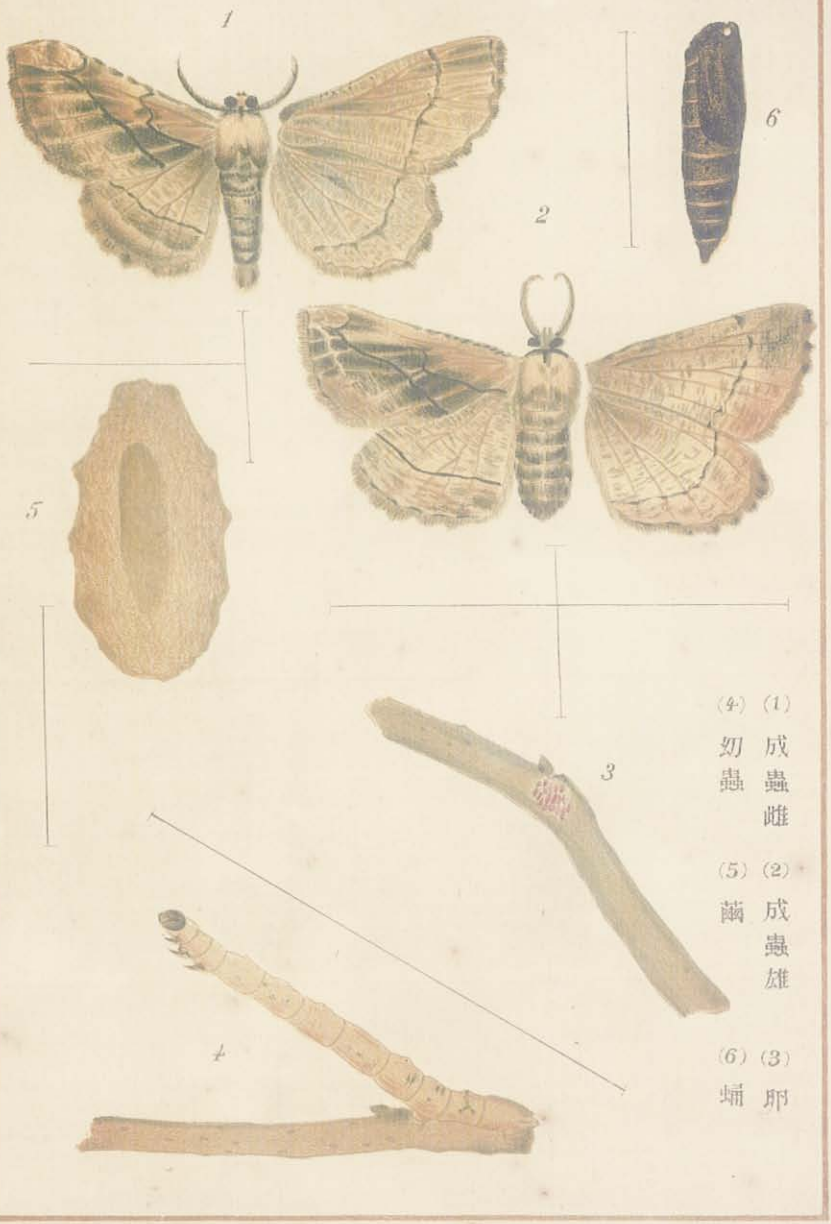
方言　くはしやくとりむし、ふだしやくとり、ばかりむし

一被害作物　桑

一形態

○成虫

雌ノ體長ハ七分二厘翅ノ開展二寸許ニシテ頭部ハ灰白色ニシテ小ナリ觸角ハ櫛歯狀ニシテ長ク末端ハ尖レリ複眼ハ圓球狀ニシテ黒色ヲ呈シ甚ダシク隆出シテ殆ンド頭ノ全面ヲ被フ前胸背ハ灰白色ヲ呈シ關節ノ部分ハ深キ横線アリテ明カニ中胸背ト區別スルコトヲ得中胸背ハ暗褐灰色ニシテ両側ニハ之レト同色ナル長キ毛束アレトモ末端ハ其色黒シ後胸背ハ帶黄褐色ナリ腹部ハ圓筒形ニシテ第



(1) 成蟲雌
(2) 成蟲雄
(3) 卵
(4) 幼蟲
(5) 繭
(6) 蛹

一節ノ背面ハ黒ク其他ノ關節ハ灰白色ト暗黒色トニヨリテ両分セラル而シテ灰白色ハ常ニ前部ヲ占ム前翅ハ殆ント三角形ニシテ其中央ニ内縁ヨリ外縁ニ向テ煤黒色ノ一帯アリテ自然ニ前翅ヲ三色帯トス其前部ハ凡ソ一様ニ暗褐色ヲ帯スレトモ其後部ニアリテハ外縁ニ近キ處ハ銀白色ヲ呈シ漸次内縁ニ向テ暗褐色トナル且ツ後縁ヨリ前縁ニ向ヒテ濃黒色ノ二個ノ斜走線ヲ有ス其内縁角ヨリ起ル一線ハ翅ノ中央ニ向テ斜走シ中央室脈ノ處ニ至リ〳〵状ニ外縁ニ向テ曲折スレトモ末端副前縁脈上ニ至リテ消失ス其他ノ一線ハ其後縁ノ中央部ヨリ前縁角ニ向テ殆ント直線ニ斜走シ翅尖ニ近キ處ニ於テ鋭角ヲ爲シテ曲折シ幽ニ前縁ニ出ツ外縁ハ波状ニシテ縁毛ハ褐色ナリ後翅ハ殆ント三角形ニシテ其外縁ハ亦波状ヲナシ且ツ帯黄褐色ノ縁毛ヲ有ス而シテ其内方モ亦等シク帯黄褐色ナレトモ臀角ヨリ凡ソ三分一隔タリタル處ヨリ濃黒色ノ一線起リ殆ント直線ニ横走ス此横線ノ内部ハ銀白色ヲ呈シ内縁ニ近キ處ニハ黒班多ク縞状ヲ爲シ後縁ニハ軟毛多シ両翅ノ裏面ハ暗褐色ニシテ小黒點ヲ點在シ中央ニ両翅ヲ通シタル黒色ノ横線アリ胸部ハ黒褐色ノ軟毛ヲ密生シ腹部ハ翅ト同色ナリ脚ハ何レモ褐色ニシテ黒

班ヲ有シ前脚ハ最モ短ケレトモ脛節ノ上端著シク肥大ナリ中脚脛節ニハ一對後脚ノ脛節ニハ二ノ小刺アリ

雄ハ其躰長六分五厘翅ノ開展一寸九分許アリ其他雌ト異ナル點ハ概シテ其彩色ノ濃厚ナルト觸角ノ櫛齒ハ長ク其脉線ハ黑褐班ヲ爲スト両翅ノ黑色斜走線ハ末端前緣ニ現出スルコト明カナルト腹部ノ痣小ニシテ末端ニ毛塊アルト両翅裏面ノ中央ニハ一個宛ノ小黑點アルト後脚ノ脛節著ク發達セルトハ其主ナルモノナリ

○卵

長サ二厘許ニシテ楕圓形ヲ爲ス桑樹ノ枝葉二三四十粒ツヽ群產シ初メハ綠色ナレトモ漸次赤色ニ變シ孵化期ニ至レバ淡黑紫色ヲ呈スルニ至ル

○幼虫

孵化時ノ幼虫ハ一分位ニシテ綠褐色ヲ呈スレトモ老熟セルモノハ躰長二寸四分ニ達ス頭ハ扁小ナレトモ腹部ハ圓筒狀ヲ爲シ末節ニ至リテ肥大トナル就中第八第九第十ノ三節最モ大ナリ全躰ノ背面ハ灰褐色ニシテ所々小黑班點ヲ散シ極メ

テ桑樹ニ酷似ス背線及亞背線ハ褐色ニシテ明ナラズ其腹面モ同色ナレトモ稍黑色ヲ帶ヘリ脚ハ腹面ト同色ニシテ胸脚三對ト腹脚ハ二對ヨリナル而シテ腹脚ハ第九節及尾脚ニアルノミニシテ第六第七第八ノ三節ニアリテハ全ク退化シテ認ムルコトヲ得ズ故ニ匍匐ノ狀恰モ尺積ヲ度ルノ狀アリ

○蛹

其形圓筒狀ニシテ長サ九分許アリ色ハ光澤アリ黑褐色ナリ大抵落葉ノ下株間等ニ潛伏シテ灰白色ノ粗繭ヲ作リ其中ニテ蛹化ス

一經過習性

本年飼育シタル經過ハ次ノ如シ

五月十八日　採集
五月三十日　老熟
六月十日　蛹化
七月一日　發蛾
七月五日　產卵

七月十三日　孵化
七月十九日　第一回脱皮
七月二十五日　第二回脱皮
八月二日　第三回脱皮
八月七日　第四回脱皮
八月十一日　蛹化
八月二十二日　發蛾
八月二十七日　産卵
九月三日　孵化
九月十日　第一回脱皮
九月十八日　第二回脱皮

以上ノ結果ニヨリテ見レバ一年二回ノ發生ヲ爲シ幼虫態ニテ越年ス而シテ飼育箱内ニテハ枯葉ノ間ニ蟄伏シタレトモ野外ニアリテハ樹梢ヲ降リ株根ノ空孔ニ於テ巧ニ潜伏スルヲ常トスレトモ往々樹幹ニ靜止スルモノアリ蓋シ温暖ノ時潜

伏所ヨリ出テ、攀登リタルモノニアラザルナキ乎

幼齢期ニハ嫩葉ニ群棲シテ葉裏ヲ喰害シ表皮ヲ殘スノミ而シテ晝間ハ喰害セズシテ大抵尾腹ノ両脚ニテ自躰ヲ樹枝ニ緊着シ口ヨリ糸ヲ吐キ樹枝ト連結シテ靜止シ他物ノ之レニ觸ルヽモ決シテ驚クコトナク且ツ其色澤形狀桑樹ニ酷似スルヲ以テ見出コト甚ダ難シ

一、驅除豫防法

本場ニ於テ未ダ調査研究セサレトモ從來行ヒタル處ニテ最モ効果アルハ概畧次ノ如シ

イ、卵塊ヲ見出シテ潰殺スルコト

ロ、春季八十八夜前即チ桑芽開綻ノ頃ニ桑園ヲ巡視シ枝幹ニ靜止セル幼虫ヲ鋏刀ニテ切斷スルコト

ハ、秋末落葉ハ丁寧ニ掻キ集メテ燒却スル事

ニ、冬期樹幹ヲ藁ノ類ニテ纏絡シ避寒所ヲ設ケ置キ彼岸前ニ解キ放チテ此ノ中ニ潜伏セルモノヲ藁ト共ニ燒却スル事

四金蛸蜥（きんけむし）

學名　Porthesia auriflua, Hüb.

昆虫學上ノ位置　鱗翅目　毒蛾科

方言　くはのけむし　くはけむし

一被害作物　主トシテ桑

一形態

○成虫

雌ノ躰長ハ六分翅ノ開展一寸四分許ニシテ全躰圓筒形ヲ爲シ頭胸両部ノ背面ニハ稍長キ白色ヲ簇生シ腹背及全躰ノ腹面ニモ白毛ヲ密生スト而シテ腹部ノ末端ニハ長サ六七厘許ノ黃毛ヲ房狀ニ簇生ス觸角ハ腹眼ノ上端ヨリ出テ羽狀ニシテ羽毛ハ少シク褐色ヲ帶フ複眼ハ頭ノ両側ニアリテ黑ク大ナリ翅ハ前後共ニ鮮麗ナル純白色ニシテ両翅ノ內緣ニハ長尾アリ又前翅ノ臀角ニ近キ處ニハ茶褐ノ班紋ヲ有ス脚ハ何レモ長キ白毛ヲ有シ後脚ノ脛節ニハ二對ノ小刺アリ

雄ハ躰長四分翅ノ開展一寸アリ其形態粗ホ雌ニ似タレトモ觸角ノ羽毛遙カニ長

大ナリ前翅ノ班紋ハ二對アリテ內緣ニ近ク存スルモノハ後緣ヨリ前緣ニ斜走シ前緣部ニ近付キテハ殆ンド見ルベカラザルモ臀角ニアルモノハ其色稍濃厚ニシテ且ツ大ナルト前翅ノ前緣ノ裏面ハ灰黑色ヲ帶ビタルト腹部ノ末端ニ存スル房狀ノ黃色毛ハ稍少ナキトハ主ナル差異ノ點トス

○卵

扁圓形ニシテ黃白色ヲ呈シ二厘許アリ常ニ被害樹ノ枝葉ニ三四十粒ヅヽ並列シテ產付セラレ其表面ハ母蛾ノ腹節ニ存セル黃色毛ヲ以テ密ニ被ハル

○幼虫

老熟セル時ノ躰長ハ一寸二三分ニ達シ頭ハ光澤アル黑色ヲ呈シ躰ノ背面及兩側ハ黃褐色ナレトモ各節共ニ數多ノ疣狀突起アリテ之レヨリ黑キ長毛ヲ簇生シ人若シ之レニ觸レバ忽チ痒ヲ覺ヘ遂ニ腫起ス又第四及第五ノ軀節ハ膨大ニシテ背上ニ光澤アル毛塊ヲ有ス背線氣門線ハ紅色ヲ帶ビ頗ル美麗ナリ而シテ躰ノ腹面ハ灰褐色ヲ呈ス

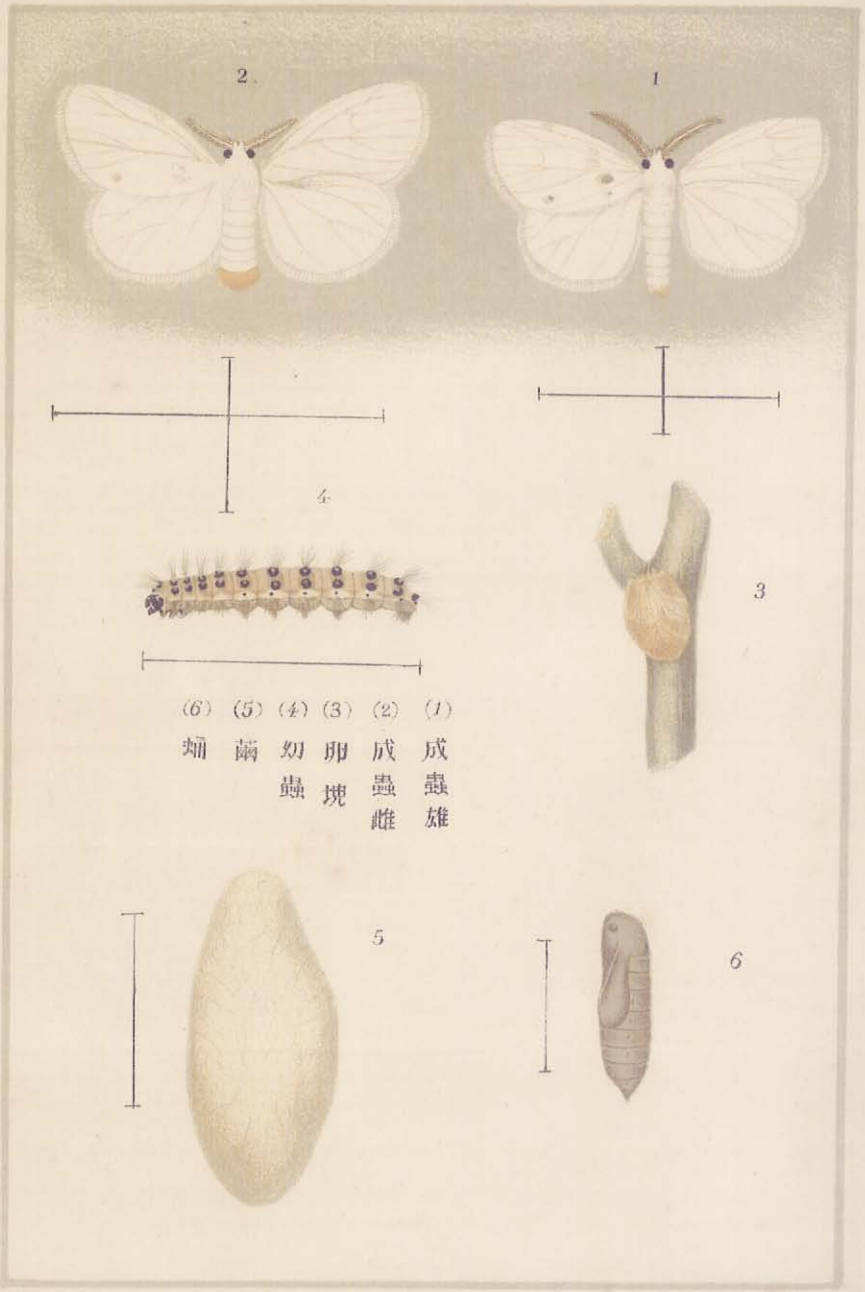
○蛹

濃褐色ニシテ長サ四分許アリ樹幹若シクハ葉裡ニ長サ八分許ニシテ灰白色ノ薄繭ヲ營ミテ蛹化ス其表面ニハ幼虫ノ躰毛ヲ現出ス

一、經過習性

本年飼育シタル經過ハ次ノ如シ

五月八日　尾長村桑園ニテ採集ス
五月二十日　第四回脫皮
六月二日　結繭
六月十三日　發蛾
六月十五日　產卵
六月二十四日　孵化
七月二日　第一回脫皮
七月六日　第二回脫皮
七月七日　第三回脫皮
七月十五日　第四回脫皮


2
1
4
3
(6) (5) (4) (3) (2) (1)
蛹 繭 幼蟲 卵塊 成蟲雌 成蟲雄
5
6

七月十九日　結繭
七月三十日　發蛾
七月三十一日　產卵
八月七日　孵化
八月十日　第一回脫皮
八月十四日　第二回脫皮
八月二十日　第三回脫皮
九月三日　結繭
九月十七日　發蛾
九月十九日　產卵
九月二十六日　孵化
九月三十日　第一回脫皮
十月六日　第二回脫皮

以上ハ本年一回ノ調査ニ過キザレトモ之レニヨリテ考フレバ年三回ノ發生ヲナシ

幼虫態ニテ越年スルカ如シ且ツ野外ノ實況ヲ調査スルトキハ幼虫ノ凌冬ハ桑樹ノ孔隙又ハ株根ノ間隙ニ入リテ灰白色ナル粗繭ヲ結ビ中ニ蟄伏シテ越年シ翌春桑芽開綻ノ頃ヨリ出テヽ喰害ス而シテ幼虫孵化ノ當時ニハ葉裏ニ群棲シテ表皮ノミヲ食スルカ爲メニ表面ヨリ見ル時ハ被害部ハ明カニ黃變スルモ漸次日ヲ經レバ四散シ軟葉嫩芽ヲ好テ喰害スルモ脫皮ノ際ニハ再ビ一定所ニ相集リ絲ヲ吐キ粗網ヲ作リ其中ニテ脫皮ス

驅除豫防法

未ダ之レガ調査ヲ行ハサレトモ從來行フテ最モ効果アルモノハ次ノ如シ

イ、冬期落葉ノ頃株間枝梢ヲ檢シテ捕殺シ又落葉及四周ノ雜草等ハ丁寧ニ掻キ集メテ燒却スベシ

ロ、卵塊ハ極メテ見易キモノナレバ採リ集メテ殺スベシ

ハ、孵化當時ニハ群棲スルモノナレバ注意シテ捕殺ス可シ

五梅尺蠖（うめしやくとり）

學名 Vithora (Abraxus) eurymede, Mots.

方言

近年安佐郡八木村ノ梅園ニ發生シタルモノハ年々增殖シ其被害盖シ尠少ナラス古來該梅林ハ娯遊ノ地トシテ名アルノミナラス其種實ハ農家ノ副產物トシテ廣ク販賣シ其價格年々壹千圓ヲ下ラサリシニ數年前ヨリ字上比原ノ梅樹ニ(上比原ハ就中最モ多ク栽植セル處)此害虫發生シ甚シキ時ハ滿圃ノ樹幹盛夏ノ候尙ホ一葉ヲ止メサルニ至ル此ニ於テカ樹勢ハ著シク衰弱シ翌春ニ至ルモ開花結實スルコトナキ慘況ヲ呈スルニ至レリ

一形態

○成虫

雌ノ體長六分四厘翅ノ開展一寸六分アリ全體軟毛ニテ被ハルレ𪜈就中後頭部ニハ黃色ノ短毛ヲ密生シ觸角ハ顱頂ヨリ生シ細長ニシテ絲狀ヲナシ其長サ三分餘アリ複眼ハ暗褐色ニシテ光澤ヲ帶ヒ大ニシテ両側ニ突出ス口器ハ吸收口ニシテ螺旋狀ヲ爲ス胸背ハ黑色ノ短毛ニテ被ハレ前翅ノ根基ニハ長キ軟毛ヲ簇生シ後

翅ノ基部ヲ被フ其色根元ハ純然タル黃色ナレトモ末端ニ至レハ全ク灰色ニ變セリ腹部ハ肥大ニシテ八節ヨリ成リ黃色ノ短毛ニテ被ハル而シテ第二節以下ノ開節ニハ黑紋アレトモ四五三六七二八ト順次其形小ナリ又腹背ノ兩緣ニハ每節一個ノ黑紋アリテ極メテ鮮明ナリ翅ハ膜質不透明ニシテ黑白ノ斑紋種々ノ形狀ヲ爲シ大小相交ヘテ全翅ヲ彩レリ而シテ兩翅ハ共ニ殆ント三角形ヲ爲シ裏面モ亦彩色表面ニ同シ體ノ腹面頸部ハ全ク黃色ヲ呈シ其他ハ黑色ナレトモ兩側ハ黃色ヲ呈シ腹部ノ中央ニハ黃色ノ縱線一個ト關節每ニ同色ノ橫線アリ脚ハ何レモ煤黑色ニシテ內面ハ稍淡色ナリ前脚ハ最モ小ニシテ脛節甚タ短カク腿節モ下部ハ太シ附節ハ明カナラス中脚ハ細長ニシテ脛節ノ下端ニ一對ノ小刺アリ附節ハ四個ニシテ末端ニ爪ヲ有ス後脚ハ長大ニシテ脛節ハ太シ其中央ト下端トニ二對ノ小刺アリ

雄ハ形チ瘠セテ稍長ク胸部ヨリ尾端ニ向テ細マル體長七分翅ノ開張一寸六分許アリ體色雌ニ似タレトモ概シテ濃黑ナリ腹背ハ殆ント黑色ナレトモ各節ニ黃色ノ一黃帶ヲ存スルト尾端ニ稍毛塊ヲ存スルト前翅ノ斑紋ハ雌ト大同小異ナレト

モ外緣ノ白紋鮮カナラサルト後翅ハ雌ヨリ大形ニシテ斑紋ノ形狀亦少シク異ナルト體ノ腹面ニ存セル黃毛ノ稍濃厚ナルトハ其差異ノ主ナル點トス

○卵

長サ七厘巾五厘厚サ四厘強ニシテ方形ヲナシ常ニ樹幹ノ空孔又ハ樹皮ノ裂間ニ三四乃至七八粒ツヽ並產セラル而シテ產付ノ當時ニハ綠色ヲ呈スレトモ漸次光澤アル暗黑色ニ變シ稍紫色ヲ帶フルモ孵化期ニ近付クハ遂ニ黑色ニ變ス

○幼虫

老熟シタルモノハ體長一寸五分許ニシテ全體ハ圓筒形ヲナシ頭部ハ大ニシテ白色ノ軟毛ヲ生ス唇基板上ト額ノ上部ニハ橫斷セル二條ノ黃色帶アリ後頭部ノ中央ハ凹陷シ幽ニ暗黃色ノ三縱線アリ胸部ノ第一關節ニハ前端ヨリ濃色ノ黃帶アリ體ハ全面暗黑色ニシテ背線亞背線ハ暗黃色ナリ而シテ體ノ每節ニハ稍大ナル黃色紋アリ殊ニ尾節ハ黃色帶ニテ隔斷セラレ縱橫ニ黃色紋多シ腹面ハ黑色ナレトモ胸脚第四腹脚及尾脚ノ基部ハ黃色ヲ呈ス三對ノ胸脚ハ黑クシテ末端ニ爪アリ又第一第二第三腹脚ハ退化セルモ黃色紋アリテ其痕跡明ナリ尾脚ハ著シク大

ニシテ外面ノ中央ニ黄紋ヲ有ス

○蛹

網目狀ノ粗繭ヲ枝間又ハ葉裡ニ作リテ蛹化スレトモ稀ニハ懸垂スルモノアリ全體ハ滑カニシテ光澤アル黃褐色ヲ呈シ且ツ之ニ漆黑ノ班點ヲ散在ス故ニ翅ノ如キハ脈管ハ淡黃色ニシテ室ハ漆黑色ヲ呈シ明カニ識別スルコトヲ得而シテ腹部ノ第四第五ノ兩節ハ全ク漆黑帶ヲ以テ緊縛ス其長サ八分許アリ

一經過習性

未タ詳ニ調査セサレトモ野外ニ生育セルモノハ春期彼岸前ニ孵化シテ蕾花若クハ新梢ノ嫩芽ヲ蝕害シ初メ四回ノ脫皮ヲ經テ老熟シ六月上旬蛹化シ一週間ノ後ニ羽化シテ直ニ產卵シ卵態ニテ越年ス幼虫ハ尺蠖狀ニ步行スルコト迅速ニシテ物體ノ觸ルヽアレハ絲ヲ吐キテ垂下シ風力ヲ假リテ移轉ス成虫ノ飛翔力ハ極メテ弱シ故ニ產卵ノ場處ハ大抵樹體ノ七八尺以下ナリトス

一驅除豫防法

未タ調查中ニシテ確言スル能ハサレトモ左ノ法ハ最モ效果アルモノヽ如シ

(1) 成蟲雄
(2) 成蟲雌
(3) 卵
(4) 幼蟲
(5) 蛹
(6) 網目繭

卵ハ大抵樹幹ノ七八尺以下ニ産付セラルヽモノナルニヨリ此全面ニ冬期石油乳劑ノ二十五倍乃至三十倍液(製法ハ蚜虫驅除劑調査ノ部ニ詳記セリ)又ハ「タール」ヲ丁寧ニ塗抹シ置ク可シ然レトモ樹幹ノ彎曲セル場合ニハ其下面ニ多ク産卵スルモノナルニヨリ丁寧ニ塗抹スルニ非レハ效果尠ナシ

六松蛞蝓（まつけむし）

學名 Gastropacha pini, L,

昆虫學上位置 鱗翅目 家蠶蛾科

方言

三十三年五月十八日廣島市水主町ニ於テ幼虫ヲ採集シ飼育シタルニ三十四年ニ至リ幼虫及成虫ノ色彩異ナレルモノ發生セリ盖シ氣候變化ノ一現象ニ過キサル可シト雖モ併記シテ參照ニ資セン

一形態

○成虫 三十三年發生ノモノ

雌ノ體長一寸二分翅ノ開展二寸九分全體軟毛ニテ被ハレ頭胸両部ノ背面ハ淡黑

色ヲ呈シ腹背ハ淡褐色ナリ腹面ハ其色稍黑シ觸角ハ後頭部ヨリ生シ櫛齒狀ナレトモ櫛齒ハ甚タ短ク其色ハ淡褐色ナリ複眼ハ大ク濃褐色ニシテ突出シ觸角ノ下面側ニアリ下唇鬚ハ毛塊狀ヲ爲シテ突出ス前翅ハ長大ニシテ翅面ハ濃褐ノ地色ニ白毛ヲ混シテ所謂霜降リノ色合ヲ爲セリ內緣ヨリ約四分前緣ヨリ一分五厘許ノ處ニ明カナル一小白點アリ而シテ外緣ヨリ內緣ニ向ヒ凡ソ五分ノ處ニ一帶ト二分五厘ノ處ニ一帶ト白色ニシテ波狀ヲ呈セル二線アリテ後緣ヨリ起リ前緣ニ向テ斜走ス其末端第二第三翅室ノ中央ニ至リテ內部ニ曲折ス內緣ニ近キモノ殊ニ然リトス外方ノ白色波狀線ニハ濃厚ナル黑褐線之ニ伴ヒ波狀最モ著シ後翅ハ不正三角形ヲ爲シ斑紋ナク地色ハ腹背ニ似タレトモ稍黑味ヲ帶ブ其內緣ノ軟毛ハ稍長シ兩翅ノ裏面モ亦淡黑褐色ナリ腹部ハ肥大ナリ脚ハ體ノ腹面ト同色ナレトモ前脚ノ外面ハ稍濃黑ナリ何レモ附節ハ五個ヨリ成リ末端ニ爪ヲ有ス

雄ハ概シテ體軀精小ニシテ體長一寸翅ノ開展二寸許ニシテ形態ノ雌ニ異ナル點ハ觸角ノ櫛齒著シク長大ナルト全體概シテ濃色ナルト二橫線ハ明カナラスシテ只外緣ニ近ク一條ノ濃褐橫線アルノミナルト後翅ハ概シテ濃黑色ナルト腹部ノ

末端ニハ黒褐色ノ長毛アルハ其主ナル差異ノ點トス

○卵

長サ七厘許ニシテ楕圓形ナリ其色ハ綠色ニシテ稍紫色ヲ帶ヘリ松梢ノ新葉ニ群産スレトモ精細ニ撿スレハ一針葉毎ニ十乃至十五六粒ヲ一列ニ産付ス

○幼虫

孵化ノ當時ハ體長一分許アリテ其色黒色ヲ呈スレトモ十分發育セル老熟虫ニアリテハ殆ント長サ二寸六七分ニ達ス頭部ハ濃褐色ニシテ軟毛ヲ生シ六個ノ單眼アリ背線ハ黒色ニシテ其上ニ白色短毛ヲ密生シ亞背線ハ美麗ナル横黄色ノ短毛密生セリ故ニ何レモ明カニ識別スルコトヲ得ス其他ノ部分ニアリテハ黒色又ハ白色ノ長毛ヲ粗生セリ殊ニ第一體節ノ背面ニハ黒キ長毛ヲ生シテ頭部ヲ被ヒ第二第三軀節ノ背面モ亦黒藍色ノ毛束ヲ有シ其中間ニハ稍長キ白毛ヲ密生セリ若シ他物ノ觸ルヽコトアレハ黒藍色ノ毛束ヲ震動スルコト機敏ナリ第十一軀節ノ背面ニハ黒クシテ稍隆起セル處アリテ黒キ短毛ト長キ粗毛ヲ混生ス殘餘ノ各節ニモ一對ツヽノ黒毛束アレトモ毛數甚タ多カラス而シテ脚ノ基部ト氣門ノ周圍

ニハ暗白色ヲ爲セル長毛叢生ス殊ニ體ノ頭尾兩端ノ兩側ニハ多クシテ且ツ長シ腹面ノ中央ニハ紅色ヲ帶ヒタル一縱線アリ

○蛹

長サ一寸一分許ニシテ濃褐色ナリ葉梢又ハ樹皮ノ間ニ長サ一寸五分許ニシテ灰白色ナル粗繭ヲ作リテ蛹化ス其形紡錘狀ヲ爲シ外面ニ長キ黑毛ヲ露出ス故ニ之ニ觸ルレハ痒ヲ覺ユ

次ニ三十四年ニ發生セル幼虫及蛾ノ三十三年ト色彩ノ異ナルモノヲ摘記セン

○成虫

雌雄共ニ其體形及體長ハ同シクレトモ翅ノ彩色稍黑クシテ全體ハ淡褐色ナレトモ前翅ニハ暗紫色ヲ迷出スルノミナラス紫黑色ノ二橫線アリ外緣ニ近キ一線ハ其色濃厚ニシテ丈牙狀ヲ爲セリ而ルニ雄ノ前翅ニアリテハ巾廣キ四橫帶ヨリ成リ外緣ヨリ數フレハ外緣ニ近キ第一帶ハ濃褐色ニシテ暗紫色ヲ帶ヒ第二帶ハ淡褐色ヲ呈シ第三帶ハ第一帶ト等シクシテ巾廣シ內緣ニ屬セル第四帶ハ第二帶ニ同シクシテ小白點ヲ有シ鮮明ナリ

○幼虫

形態ハ敢テ異ナルコト無ケレトモ亞背線上ニ存セル橙黄色ニシテ美麗ナル短毛ナクシテ暗白色ヲ呈セルノミ

一經過習性

昨三十三年採集以來飼育シタル經過次ノ如シ

三十三年五月十八日　採集
五月二十四日　第四回脫皮
六月六日　結繭
六月二十八日　雄蛾三出ツ
六月三十日　雌蛾二出ツ
七月三日　交尾
七月六日　產卵
七月十六日　孵化　孵化虫ハ黑色ナル毛子ニシテ體長一分強アリ
七月二十一日　第一回脫皮

體長三分五厘アリテ關節毎ニ黃色帶ヲナシ黑班點アリテ第二第三ノ關節ノ背上ニ光澤アル黑藍色ノ毛塊二對アリ

八月五日　第二回脫皮　體長八分

八月二十六日　第三回脫皮　體長一寸三分

此齡ニテ越年ス

卅四年四月二十七日　第四回脫皮　體長一寸七分

五月五日　結繭

六月十日　發蛾

七月二日　產卵

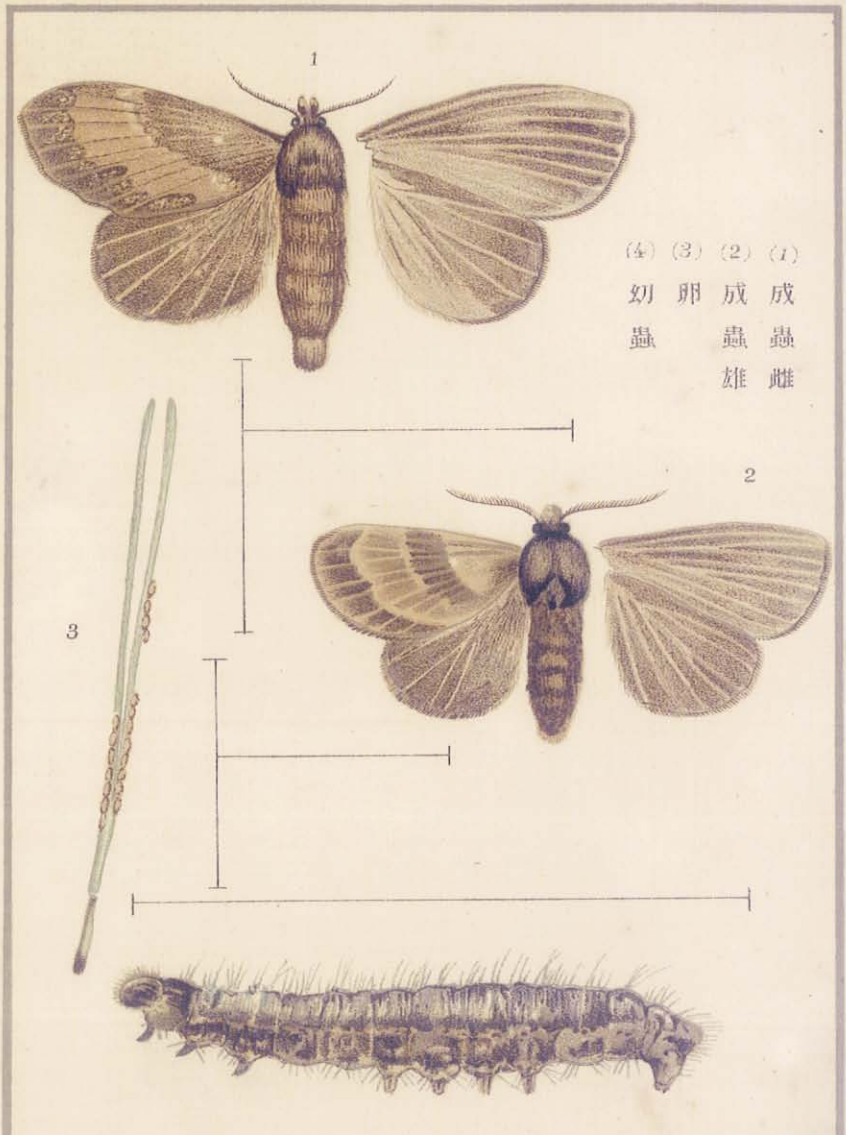
七月十三日　孵化

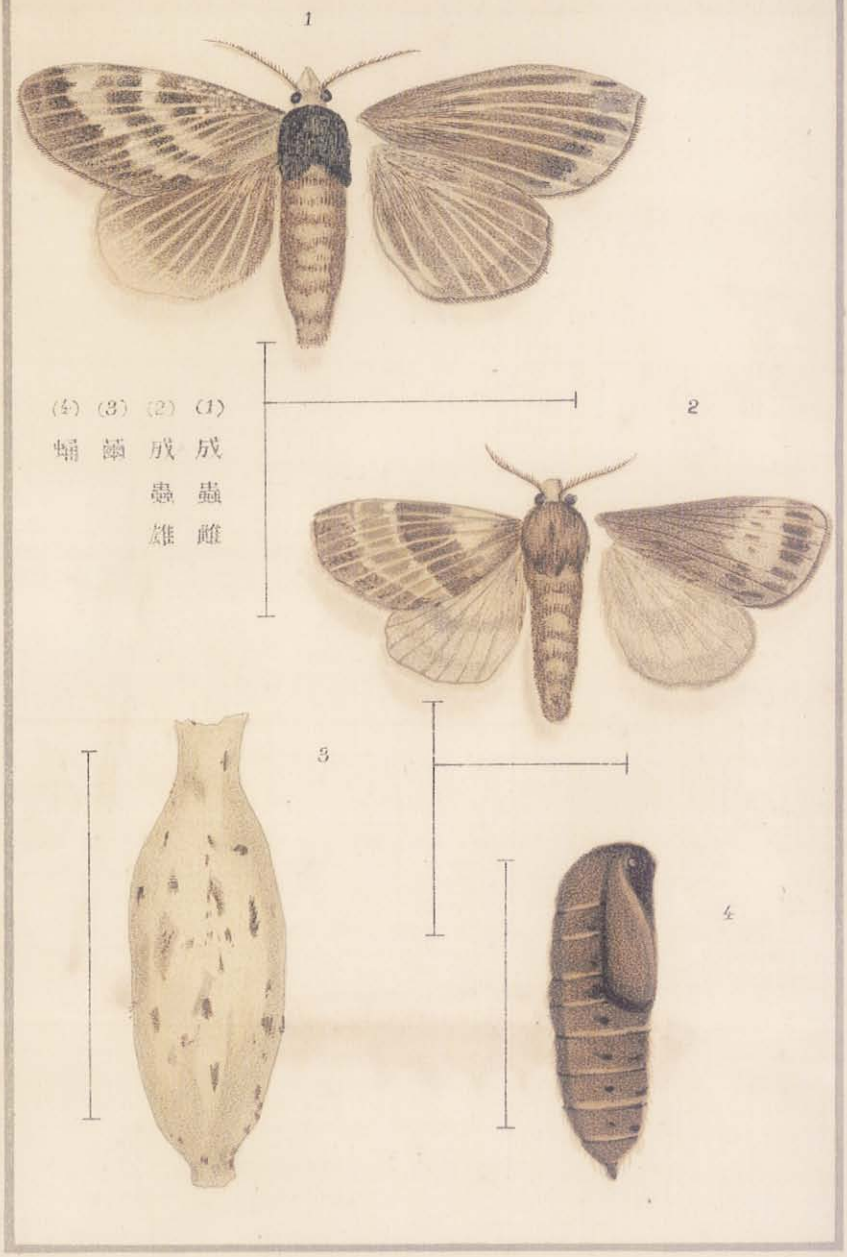
七月十七日　第一回脫皮

七月二十四日　第二回脫皮

七月三十一日　第三回脫皮

八月八日　第四回脫皮


1
(4) 幼蟲
(3) 卵
(2) 成蟲 雄
(1) 成蟲 雌
2
3
4


1
(1) 成蟲雌
(2) 成蟲雄
(3) 繭
(4) 蛹
2
3
4

八月二日　發蛾
九月十八日　孵化
九月二十三日　第一回脫皮
九月三十日　第二回脫皮
十月十日　第三回脫皮

以上飼育ノ結果ニヨリテハ一年幾回ノ發生ナルヤ未タ詳ナラスト雖モ之ヲ野外ノ實況ニ照シテ推究スレハ一年一回ノ發生ナルカ如シ盖シ飼育虫ニアリテハ餌料ト温度ノ關係ニヨリテ今年ノ如ク早熟シタルニ非サルナキカ尚ホ試驗ヲ繼續シテ確報スル處アラントス而シテ幼虫態ニテ越年セル者ハ飼育箱ニアリテハ箱ノ隅角ニ於テ營ミタレトモ野外ニアリテハ雨露ノ侵襲セサル孔隙又ハ根元ニ降リ落葉ノ下ニ集合シテ越年シ春期温暖ノ時ニ至リテ梢上ニ登リ好テ新葉ヲ食ス其狀尖端ヨリ初メ漸次葉鞘ニ喰ヒ及シ終ニ一針葉ナキニ至ラシムサレトモ幼齡ノモノハ敢テ全葉ヲ喰フコトナク葉ノ中助ノミヲ喰害スルヲ常トス

因ニ記ス飼育虫ニアリテハ各期トモ日光ノ透射セル時ニハ運動活潑トナリ徃々

針葉ヲ喰セルヲ見タリ

一驅除豫防法

本場ニ於テハ未タ調査研究セサレトモ舊來施行シテ最モ效果アル方法ハ大畧次ノ如シ

イ、幼虫ノ幼齡期ニハ枝梢ニ群棲スルモノナルニヨリ孵化後數日間內ニ注意シテ樹梢ト共ニ切リ取リ燒キ殺ス可シ

ロ、冬期ハ被害樹ノ根元ニ下リ落葉等ノ下ニ潛伏シテ越年スルモノナルニヨリ秋末若クハ冬期ニ注意シテ搜索シ殺ス可シ

ハ、春暖ノ期ニ至レハ潛伏所ヲ出テヽ樹幹ニ攀登スルモノナルニヨリ根際ヲ去ル五六尺ノ處ニ巾一尺許ニ「タール」ヲ丁寧ニ塗リ置ク可シ然ル時ハ害虫此粘液ノ爲メニ上ルコト能ハスシテ付着ス可シ故ニ時々巡視シテ撲殺ス可シ

七（すじきりむし）

學名

昆虫學上ノ位置　鱗翅目糖蛾科

此害虫ハ敢テ作物ヲ害セルコトヲ聞カサレトモ其卵塊ハ大抵畦傍ノ稻葉ニ產付セラレ其狀頗ル三化性螟虫ノ卵塊ニ酷似スルニヨリ當業者ニ往々疑惑ヲ生セシムルヲ以テ本年之ヲ飼育シテ調査セリ次ニ其要領ヲ記シテ參照ニ資セン

一形態

○成虫

雌ノ體長四分五厘翅ノ開展九分五厘全體灰白色ノ軟毛ヲ以テ被ハルレトモ胸背ニ叢生セルモノハ殊ニ長シ腹部ノ尾端ニハ稍白クシテ房狀ノ束毛アリ觸角ハ櫛齒狀ニシテ後頭部ヨリ生シ濃褐色ナリ複眼ハ甚ダ大ニシテ黑ク口器ハ吸收口トナリテ螺旋狀ヲナス下唇鬚ハ軟毛ニテ被ハレ突出ス前翅ハ光澤アル黑褐色ニシテ紫色ヲ迷出スルアリ數多ノ雲狀紋アレトモ環狀紋ハ灰白色ヲ呈シ明ナリ腎臟紋ハ黑色ヲ呈ス後橫線ハ黑ク波狀線ハ白クシテ其間ハ暗黑色ナリ外緣ニハ七個ノ微黑點アリ緣毛ハ黑褐色ト濃褐色ト遂次相交レリ後翅ノ外緣及前緣ハ光澤アル煤黑色ヲ爲シ內緣及後緣ニ向テ漸次濃度ヲ減シ內緣角ハ全ク白色ヲ呈シ緣

毛ハ白色ナリ而シテ中央ニハ明カナル一黒點アリ前翅ノ裏面及後翅裏面ノ前緣ト外緣ハ光澤アル淡黑色ヲ呈シ兩翅外緣ノ翅室ニハ各一個ノ微黑點ヲ有シ後翅ノ中央ニ存セル黑點モ明カナリ體ノ腹面モ軟毛ニテ被ハレ胸部ヨリ尾端ニ向テ漸次細マル三對ノ脚ハ軟毛ニテ被ハレ何レモ脛部ハ肥大ナレトモ前脚ハ小ニシテ後脚ハ最モ長大ナリ中脚ノ脛節ニ二對ト後脚ノ跗節ニ二對ノ小刺アリ

雄ハ雌ト敢テ異ナルコトナシ僅カニ體軀ノ小ナルト觸角ノ細長ナル絲狀ヲ呈セルト後翅ノ中央黑點明カナラザルトハ著シキ特兆ナリ

○卵

圓球狀ニシテ帶黃白色ナリ直徑三厘許アリ一塊三十五六粒乃至五十五六粒アリテ粒々重疊セラレテ楕圓形ニ稻葉又ハ路傍ノ禾本科ニ屬セル雜草ノ葉面ニ產付セラレ其外面ハ尾端ニ存セル房狀毛ニテ被ヒ白色ヲ呈セリ一塊ノ大サ長サハ直徑三分巾二分ニ至ルコトアリ

○幼虫

體軀ハ圓筒狀ニシテ老熟セルモノハ體長八分許アリ孵化ノ當時ハ靑綠色ナレト

モ老熟虫ハ頭部濃褐色ニシテ額ハ白線ヲ以テ字狀ニ區劃セラレ其外部ハ白毛ヲ生ズ體ノ背面ハ帶紅褐色ニシテ粗毛アリ背線ハ暗色ナレトモ亞背線及氣門線ハ白色ナリ而シテ亞背線上ノ每節ニハ濃黑ニシテ三角狀ノ班紋アリ氣門ハ黑ク其上部ニハ亞背線ニ似タル一線アリ腹節ハ帶紅白色ニシテ脚モ之ニ同シ而シテ胸脚ハ三對腹脚ハ四對尾脚ハ一對ナリ

○蛹

光澤アル帶紅ノ黑褐色ナリ大サ四分七八厘ニシテ裸蛹ヲ爲シ地中ニ入リテ蛹化ス其位置ハ大抵七八分乃至一寸許ノ深サニアリ

一經過習性

本年飼育シタル經過ハ次ノ如シ

三十四年七月三十日　孵化

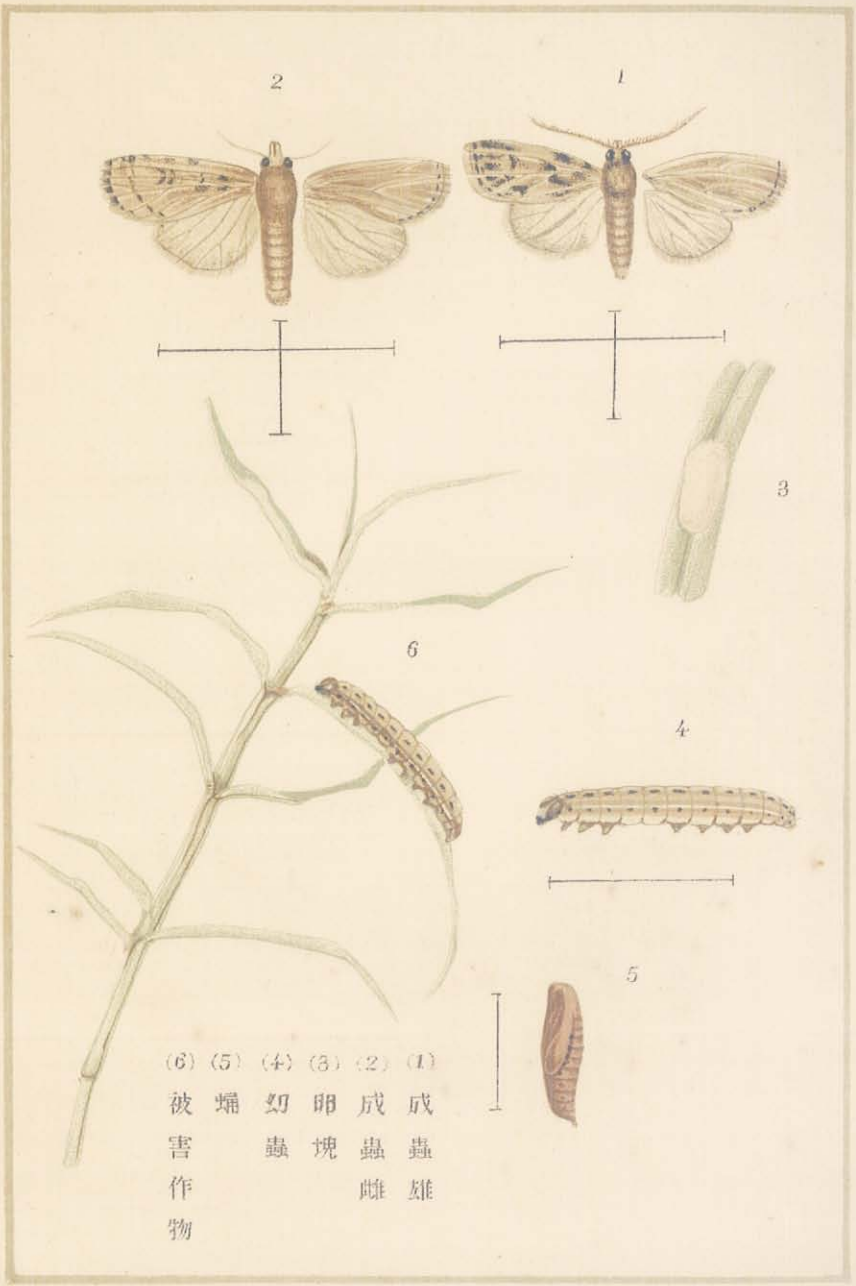
八月三日　第一回脫皮

八月九日　第二回

八月十五日　第三回

八月二十一日　第四回
八月二十六日　蛹化
九月三日　發蛾
九月四日　產卵
九月十日　孵化
九月十五日　第一回
九月二十二日　第二回
九月二十八日　第三回
十月五日　第四回
十月十日　蟄伏初メ
十月二十一日　大半蟄伏

以上本年一回ノ調査ナルニヨリ其經過ヲ明カニ報告スルコト能ハザレトモ一年二回ノ發生ヲナシ秋末發生ノ幼虫ハ三齢乃至四齢ノ儘ニテ土中ニ蟄伏シ體ヲ環狀ニ灣曲シ土窩ノ內ニアリテ越年スルが如シ孵化ノ當時ニハ嫩芽軟葉ノ表面ノミヲ食


2
1
3
6
4
5
(6) 被害作物
(5) 蛹
(4) 幼蟲
(3) 卵塊
(2) 成蟲雌
(1) 成蟲雄

スルモ成長スルニ至レバ被害植物ノ全葉ヲ慘喰ス其形極メテ夜盜虫ニ類セルヲ以テ往々田圃又ハ畦間ニ夜盜虫不時ニ發生セリト云フコトアリ又卵ノ外形甚ダ三化性螟虫ノ卵塊ニ類セルニヨリ彼是混交セラルヽコト多シ故ニ其著シク異ナル特點ヲ揭ゲン

之ノ卵塊ノ被毛ハ白色ニシテ薄ク綿狀ヲ爲シ且ツ大ナリ

參照

三化性ノ螟虫卵塊ハ被毛茶褐色ヲ帶ヒ甚ダ厚ク且ツ毛ヲ爲シ稍小ナリ

八桑尺蠖寄生蠅（くはしやくとりやとりばい）

學名

昆虫學上位置　双翅目　家蠅科

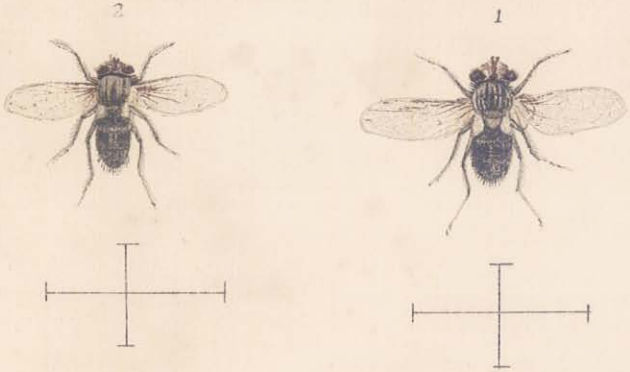
方言

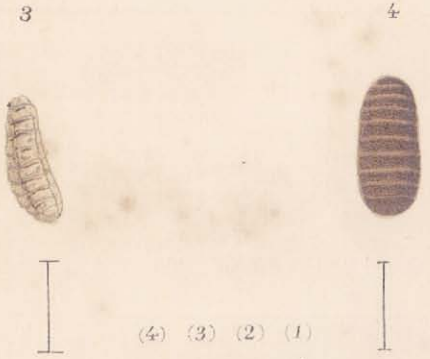
本年野外ニテ採集セル桑尺蠖ヲ飼育シタルニ五齡ニ至リ所謂蛆虫ト稱セル者數多發生シ裸蛹ニ化シタルヲ以テ土中ニ埋メ水濕ヲ時々給シ置キタルニ九月二十三日ニ至リ寄生蠅羽化セリ

一形態

○成虫

雌ハ體長四分五厘翅ノ開展八分五厘アリ後頭部ハ灰白ニシテ顔面ハ白色ナリ頭背ノ中央ニハ觸角ノ基部ヨリ起リテ後頭縁ニ達スル一條ノ暗褐縦線アリテ後縁ニ至ルニ從ヒ稍細マル觸角ハ黒色ニシテ顱頂ヨリ生ジ休止ノ時ニハ常ニ顔面ノ凹陷部ニ摺折セラル莖部ハ黄褐ニシテ二對ノ長毛アリ而シテ頭部ノ全面ニハ大小數多ノ疣狀突起アリテ黒色ノ粗毛長短相混シテ生スレトモ顔面ニハ甚ダ少シ複眼ハ頭ノ兩側ニアリテ褐色ヲ呈シ軟毛ノ如キモノアリ著ク大ニシテ殆ンド頭ノ三分ノ二ヲ占ム其外縁ニハ白色帶アルニヨリ之ヲ胸側ヨリ見レバ恰モ眼瞼ノ如シ胸背ハ灰白色ニシテ黒色ノ四縦線アリ其四縦線ノ中間及兩側ニハ各七個ノ漆黒點五縦列ヲナシ其基部ハ隆起シ一點毎ニ一本ノ粗毛アリ胸部ノ兩側ニハ特ニ多クシテ其毛又長シ腹背ハ黒クシテ灰白色ヲ混ジ長短ノ毛多シ殊ニ腹端ニハ黒色ノ粗毛ヲ叢生ス前翅ハ羽箒狀ヲ爲シ透明ニシテ反射ニヨリ翅色ヲ異ニセシ七色ヲ迷出ス翅脈ハ黒色ナリ鱗狀辨ハ白色不透明ナリ體ノ腹面ハ黒ケレトモ胸





(1) 成蟲 雌
(2) 成蟲 雄
(3) 幼蟲
(4) 蛹

腹部ノ大部ハ青白色ヲ呈セリ腹部ハ肥大ニシテ末端ニハ深黒ノ粗毛多ク脚ハ三對トモ深黒色ニシテ後脚最モ肥大ナリ何レモ黒毛ヲ被ヒ末端ニハ一双ノ爪ヲ有ス

雄ハ其形稍小ニシテ體長三分五厘翅ノ開展七分五厘アリ又腹部第二關節ノ第一第三ノ両節ニ接續スル部ハ著シク白色ヲ呈シ恰モ二横線ノ如シ其他ハ彩色敢テ異ナルコトナシ

○幼虫

幼虫ノ老熟セルモノハ體長三分四五厘アレトモ無頭無脚ニシテ俗ニ稱スル蛆虫ナリ其色淡黄白色ニシテ頭部ハ小ニシテ尾端ハ大ナリ頭頂ニハ黒色ニシテ灣曲シテ尖鋭ナル上顎二個ヲ有シ體側ノ皺襞重疊シ尾端ノ皺襞ハ凹陷シテ中央ニ黒色ノ氣門アリ

○蛹

蛹ハ濃紅色ヲ呈シ圓筒形ニシテ長サ四分許アリ

九蚜虫驅除劑ニ關スル調査

蚜虫ハ大抵ノ農作物殊ニ煙草、藍、菜類ノ如キ需葉作物ニハ好テ寄生増殖シテ吸害ヲ逞シ大ニ其品質ヲ惡變スルモノナルヲ以テ從來種々ニ研究ノ結果其驅除劑ハ數多アリト雖モ未ダ各種ノ蚜虫ニ通用シテ著シク効アルノ良劑ナシ故ニ本場ニ於テ去ル三十二年以來屢々種々ノ作物ニ寄生スル蚜虫ニ就テ藥劑ノ製注ト施用ノ時期ヲ異ニシテ適當ナル驅除劑ノ調査ヲ行ヒタレバ其成蹟稍確實ナリト認メラレタルモノヲ撰テ逐次其方法ト結果ノ概要ヲ左ニ揭ケン

一、柑橘類蚜虫

其一石油乳劑ノ適當濃度ノ調査

明治三十二年五月十一日本縣師範學校附屬農園ニ栽植セラレタル夏橙ノ新芽ニ發生セル蚜虫ニ就テ調査セリ而シテ石油乳劑ハ粗製石鹸百二十匁、普通販賣セルモノニシテ當時價格一本ニ付四錢)ヲ細截シテ微温湯二升五合ニ溶解シ布片ニテ濾過シ夾雜物ヲ除キ更ニ百四五十度ニ温メテ石油五升ヲ加ヘ丁寧ニ攪拌シツヽ冷却セシメタルモノヲ原液トセリ之ヲ微温湯ヲ以テ種々ノ濃度ニ稀釋シテ調査

用ニ供セリ而シテ之ヲ施用スルニハ高温ノ時ヲ撰ヒ大抵午後一時普通ノ散霧器ヲ用ヒ葉端ヨリ液ノ滴下スルマデ注射セリ

供試液	植物被害ノ有無			死虫歩合
	其當時	二十四時後	三十六時後	
二十倍液	被害ノ實況ヲ見	軟葉ニ異狀アリ	嫩芽黑色ニ變ス	九〇
三十倍液	同	同	異狀ナシ	七五
三十倍液	同	同	同	七〇
四十倍液	同	同	同	四〇
四十倍液	同	同	同	四〇
五十倍液	同	同	同	效ナシ

二十倍トハ原液一舛ヲ微温湯ニテ二十倍ニ稀薄セルモノ三十倍液トハ三十倍ニ稀薄セルモノ以下之ニ準ス

死虫ノ歩合ハ全滅ヲ一〇〇トシテ記載セリ

右ノ成蹟ニ依ルトキハ害虫ノ殺滅力ハ稀釋ノ度進ムニ從ヒ減少スルモノナレトモ

二十倍液ノ如キハ濃厚ニ過キ反リテ植物ヲ害スルノ恐レアレハ寧ロ三十倍乃至三十五倍液ヲ適當トスルカ如シ而シテ一回ノ使用ニテハ到底全滅ヲ望ムヘカラサレハ更ニ數回ノ使用ニヨリテ効果ヲ收ムルヲ適當トス

其二　各種驅除液効力調査

三十三年年十一月其一ト等シク師範學校附屬農園夏橙ニ發生セル蚜虫ニ就テ左記ノ五種驅除液ヲ試用セリ而シテ其方法ハ前ト異ナルコトナシ

一、除虫菊末一匁ヲ酒精一合ニ二十四時間浸出シタル液汁ニ水一舛加ヘタルモノ

二、除虫菊末二匁ニ水一舛ヲ加ヘ三時間文火ニテ煎出シタル液

三、苛性曹達百二十匁ヲ水二舛ニ溶解シタル液

四、苛性曹達百二十匁ヲ水二舛ニ溶解シ食鹽一舛ヲ加ヘタル液

五、生石灰二百匁ト硫黄二百匁ノ混合物ニ水一斗五舛ヲ加ヘ溶解セシメタル液

試供液名	植物被害ノ有無			死虫歩合
	施用當時	二十四時間後	三十六時間後	
一	害ナシ	害ナシ	害ナシ	九五
二	同	同	軟葉變色	六〇

三	害アリ	軟葉枯凋ス	同	八〇
四	同	同	同	八五
五	同	同	同	九〇

右ノ成蹟ニヨレハ除虫菊末酒精浸出液効顯最モ著シクレトモ經濟的驅除劑トシテ廣ク一般ニ應用スル事難カル可ク其他ハ結果善良ナラズ

蔬菜蚜虫驅除劑効力調査

本場試驗地蔬菜類等ニ寄生セル蚜虫ニ就テ左記三種ノ驅除液ヲ試驗セリ而シテ其施用方法ハ前ニ同シ

一、除虫菊末五匁ニ水一升ヲ加ヘ三時間煎出シタル液

二、除虫菊末一匁ヲ酒精一合ニテ二十四時間浸出シ水二升ヲ加ヘタル液

三、煙草莖五十匁ニ水一升ヲ加ヘ三時間煎出シタル液

試藥液名	植物被害ノ有無			死虫歩合
	施用當時	二十四時間後	三十六時間後	
一	害ナシ	害ナシ	害ナシ	五〇
二	同	同	同	五五

三	害ナシ	害ナシ	害ナシ	五〇

右ノ如ク各液ノ効果顯著ナラズ從テ之等ノ驅除液ハ未ダ適當ナルモノト認ムル能ハザレハ更ニ調査ヲ繼續シテ其最モ効力ノ大ナルモノヲ發見シテ報告スル所アラントス

驅除液適當濃度ノ調査

三十三年十一月二十五日快晴ニシテ風ナク温暖ナリシヲ以テ蔬菜ニ發生スル蚜虫ニ就テ煙草煎出液乳劑石油乳劑ヲ施用シテ適當濃度ヲ調査セリ而シテ其煙草煎出液乳劑ノ製法ハ恰モ石油乳劑ノ製法ニ似タレトモ石油ノ代用トシテ煙草浸出液即チ煙草蒸五十匁ニ水一升ヲ加ヘ三時間文火ニテ煎出シタルモノヲ用ヒタリ施用ノ方法ハ前ト同シ

試液名	植物被害ノ有無			死虫歩合
	施用當時	二十四時間後	三十六時間後	
石油乳劑二十五倍	軟葉ニ稍害アリ	軟葉變違スレトモ甚シカラズ	軟葉ニ變違部アリ	九〇
同　三十倍	害ナシ	害ナシ	害ナシ	九〇
同	同	同	同	八〇

煙草乳劑二十五倍	害ナシ	害ナシ	害ナシ	七五
同　三十倍	同	同	同	四〇
同　三十五倍	同	同	同	三〇

右ノ成蹟ニヨレバ石油乳劑ハ何レモレモ效能顯著ナリシト雖蔬菜類ニ石油ノ臭氣ヲ附加スルノ嫌アリテ之ヲ食膳ニ供スレバ三十五倍液施用ノモノニシテモ丁寧ニ清水ニテ洗ヒ日光ニ曝シタル後ニアラザレバ食用ニ供セラレズ煙草乳劑ハ二十五倍液ハ稍效力アルガ如シ故ニ本液ヲ數回連續スル方寧ロ適當ナランカ

小麥、甘藍及稻苗代ニ發生セル蚜虫

各種驅除液效力調査

三十四年六月十一日(快晴)本場試驗地ノ小麥ニ發生セル黑色蚜虫、甘藍及稻苗代ニ發生セル綠色蚜虫ニ就テ左ノ驅除劑ヲ施用シテ其效力ヲ調査セリ

施用劑名稱及製法

一、石油乳劑三十五倍液　(前ニ同シ)

二、苦木液　(苦木ノ生皮五十匁ニ水一升ヲ加ヘ三時間煎出シタルモノ)

三、石鹸液（粗製石鹸十匁ヲ溫湯一升ニ溶解シタルモノ）

四、曹達液（苛性曹達十匁ヲ溫湯一升ニ溶解シタルモノ）

五、煙草液（煙草乾葉百二十匁ニ沸湯四升ヲ加ヘ十五時間侵出ス）

六、石鹸煙草合劑（(三)ノ石鹸液ト(五)ノ煙草液ヲ同量ニ混シタルモノ）

七、石鹸ヘ苦木液合劑（(三)ノ石鹸液ニ(二)ノ苦木液ヲ同量ニ混シタルモノ）

八、石鹸醋酸合劑（(三)ノ石鹸液ト醋酸ヲ三十倍ニ稀釋シタル液トヲ混シタルモノ）

九、ボールト合劑（生石灰二百四十匁ト丹礬三百六十匁ヲ水六升ニ溶解シタルモノ）

十、硫黄合劑（生石灰百二十匁硫黄百二十匁丹礬九十匁ヲ水二斗五升ニ溶解シタルモノ）

試供液名	植物被害ノ有無 施用當時	二十四時間後	三十六時間後	死虫歩合
石油乳劑三十倍	變狀ナシ	稍害アリ	變狀ナシ	六〇
苦木液	同	同	往々枯凋セル部アリ	六五
石鹸一斗液	同	變狀ナシ	變狀ナシ	六〇
苛性加里溶液	嫩芽ニ害アリ	害ヲ認ム	大抵枯凋ス	七〇
石鹸煙草合劑	變狀ナシ	變狀ナシ	變狀ナシ	六〇

煙草液	同	同	同	五〇
石鹸苦木合劑	同	稍害アリ	稍害アリ	六五
石鹸醋酸合劑	嫩芽ニ害アリ	害ヲ認ム	大抵枯凋ス	七〇
ボールド液	變狀ナシ	同		三〇
硫黄合劑	同	稍害アリ	葉ニ點々異狀アリ	三〇

右ノ成蹟ニヨレバ死虫ノ歩合ハ石鹸醋酸合劑及曹達液最モ多ク次ニ苦木液石鹸苦木合劑等ナリシモ何レモ稍植葉ヲ損傷スルノ患アレバ未ダ適當ナル驅除劑ト認ムルヲ得ズ

廿藍及廣島菜ノ蚜虫

各種驅除液効力調査

三十四年十一月四日更ニ附屬農園ニ夥シク發生セル絲蚜虫ニ就テ左ノ驅除液ヲ試用セリ而シテ其施用方法ハ敢テ異ナルコトナシ

施用劑名稱及製法

一、石油乳劑二十五倍　（前ニ仝シ）

二、石鹸液　（前ニ仝ジ）
三、健稻液十五倍液　（大阪東區平野町二丁目　安住伊三郎販賣）
四、仝　二十倍液　仝上
五、インセリトール三十倍液　（神戸市後藤造販賣）
六、インセリトール四十倍液　仝上
七、煙草液十五倍　（乾煙草莖五十匁ニ水一升ヲ加ヘ三時間煎出シタルモノ）
八、仝　二十倍液　仝上
九、苦木十五倍液　（乾苦木皮五十匁ニ水一升ヲ加ヘ三時間煎出シタルモノ）
十、仝　二十倍液　仝上
十一、蕃椒十五倍液　（蕃椒二十五匁ニ水一升ヲ加ヘ三時間煎出シタルモノ）
十二、仝　二十倍液　仝上
十三、醋酸百倍液
十四、石油乳劑三十倍液ニ食鹽合劑　（溶液一升ニ付食鹽一匁ヲ加ヘタルモノ）
十五、煙草二十倍液ニ食鹽合劑　仝上

(1) 有翅成蟲
(2) 無翅成蟲
(3) 作物附着狀

十六、苦木二十倍液ニ食鹽合劑
十七、蕃椒二十倍液ニ食鹽合劑　仝　上
而シテ之レカ結果ハ次ノ如シ

試供液名稱	植物被害ノ有無				死虫歩合
	施用當時	二十四時間後	三十六時間後		
一、石油乳劑三十五倍液	變狀ナシ	變狀ナシ	變狀ナシ		六〇
二、石　鹼　液	仝	仝	仝		六〇
三、健稻液十五倍液	仝	仝	仝		八五
四、仝　二十倍液	仝	仝	仝		八〇
五、インセリトール三十倍液	嫩芽ニ害アリ	植葉枯凋ス	植葉枯凋ス		一〇〇
六、仝　四十倍液	仝	仝	仝		九〇
七、煙草液十五倍液	變狀ナシ	變狀ナシ	變狀ナシ		四五
八、仝　二十倍液	仝	仝	仝		四〇
九、苦木　十五倍液	仝	仝	仝		五〇
十、仝　二十倍液	仝	仝	仝		四五

十一、蕃椒液十五倍液	變狀ナシ	稍害アリ	稍害アリ	五五
十二、蕃椒　二十倍液	仝	變狀ナシ	害ナシ	五〇
十三、醋酸　百倍液	嫩芽ニ害アリ	稍害アリ	植葉枯凋ス	六〇
十四、石油乳劑三十倍液ニ食鹽合劑	變狀ナシ	變狀ナシ	稍害アリ	五五
十五、煙草液二十倍液ニ食鹽合劑	仝	仝	仝	四〇
十六、苦木液二十倍液ニ食鹽合劑	仝	仝	仝	四五
十七、蕃椒液二十倍液ニ食鹽合劑	仝	仝	仝	五〇

右ノ成蹟ニ依レバ健稻液最モ有効ナリシモ一磅五拾錢ノ價格ナルニヨリ比較的高價ノ驅除劑トナルヲ以テ實用上必適ナリトスルコト能ハズ而シテ「インセクトール」ハ全然植葉ヲ損傷スルニヨリ合劑トシテ使用スルニアラサレバ用途ニ適セザルガ如シ

十二　化性螟虫ノ習性ニ關スル調査

稻ノ種類及栽培法ノ異ナルニ從ヒテ螟虫類喰害ノ狀態ニ自ラ多少ノ差異アルハ常ニ目擊スル處ナルヲ以テ其關係ヲ調査シテ習性ヲ推究スルハ彼カ驅除豫防法ノ研

鑽上必要ナル可キヲ認メ本年高田、賀茂、深安ノ三個所ニ分設セル當場試作地稻作田ニ於テ秋末刈入期ノ狀態ヲ調査セシメタリ素ヨリ秋期一回ノ調査ナルニヨリ往々正鵠ヲ缺クノ嫌ナキニアラサレドモ其概要ヲ記シテ參照ニ資セントス

調査ノ方法

本調査ハ風土栽培法ノ多少差異アル三試作地ニ於テ施行シタレドモ特ニ調査區ヲ設クタルニアラスシテ普通試作區ニ就キ空氣ノ流通十分ニシテ日光透射亦宜シキ場所即チ畦畔又ハ通路等ニ面セル處ト田ノ中央部ニシテ比較的空氣ノ流通日光ノ透射不良ナル場所トヲ撰ビ擔當者ヲシテ每區ニ付キ五株宛土際ヨリ刈リ取ラシメ其惣本數ヲ算シ置キ更ニ莖每ニ解剖シテ喰害ノ有無ヲ檢シ若シ被害莖アルトキハ穗梗ニ異狀即チ白枯又ハ黑變等ノ有無ヲ調査セリ

高田郡試作地　擔當者　高田郡可愛村　秋月文次郎

田外側一田内側

種類名	供試莖總本數	被害莖本數	穗ニ異狀アルモノ	供試莖總本數	被害莖本數	穗ニ異狀アルモノ
白玉	六五本	三九本	一本	七三本	二九本	〇本

次ニ參照ノ爲メ以上供試種類ノ特性品質ヲ掲グン

種類名	早中晩區別	稈 硬軟	稈 大小	稈 長短	一穂ノ平均粒數	米粒品質	刈取時ノ稻倒否
多胡穗	晩	硬	中	三、七〇沢	一二八	小粒	否
白玉	仝	硬	中	三、七〇	一三五	大粒	否
八反穗	仝	軟	中	三、七〇	一六七	大粒	佳
多胡增	六七	一八		○	九六	三八	○
八反草	八〇	一七		○	四九	二三	○
斗滿穗	七五	四		○	五七	六	一
雄町	六七	一四		一	七三	一六	○
王子千本	九八	一六		○	八一	一八	一
三國	八八	一三		○	七六	三四	一
八重穗	七九	二六		○	八三	一六	二
赤二本	七二	一五		三	九二	三六	七
江戸	六七	一八		○	九六	三八	○

斗滿穗	雄町	王子千本	三國	八重穗	赤二本	江戸
晚	仝	仝	仝	仝	仝	仝
硬	軟	軟	硬	硬	硬	軟
大	大	中	大	小	小	大
三、八〇	四、〇〇	三、五〇	三、七〇	三、五〇	三、二〇	三、七〇
一八〇	一八五	一二四	二一二	一三九	一三二	一四四
大粒良	大粒惡	大粒良	大粒佳	小粒佳	小粒惡	大粒良
倒	倒	倒	倒	否	否	倒

賀茂郡試作地　擔當者賀茂郡西條町桑原順助

田外側一田内側

種類名	供試莖總本數	被害莖本數	穗ニ異狀アルモノ	供試莖總本數	被害莖本數	穗ニ異狀アルモノ
斗滿穗	四五本	三二本	五本	四八本	一三本	○本
二本草	六七	一	○	八〇	七	○
王子千本	五五	二一	一	八一	二	○
強力	五四	二八	○	五七	二六	○

	養毛	六分	龜壽	八重穗	神力	福山	三國	唐小僧	百膳穗	山田穗
	五九	四八	五四	六五	六〇	五一	六二	五四	五八	五七
	二一	三六	二〇	一七	七	一四	二六	一七	三六	三一
	〇	〇	〇	一	〇	〇	〇	〇	三	三
	七七	五二	四三	六六	八三	四一				
	五	二四	三〇	二三	一六	一七				
	〇	〇	〇	一	〇	二				

備考

三國以下四種ハ試驗區田ノ中央ニ設ケアリシニヨリ內側ノ調査ヲ省ケリ

同上　特性品質ニ關スル調査表

種類名	早中晩區別	稿稈 硬軟	稿稈 大小	稿稈 長短	一穗ノ平均粒數	米粒品質	刈入時稻倒否
斗滿穗	晩	稍硬	大	三、七〇尺	一八〇	良	倒
二本草	晩	硬	大	三、三〇	一九〇	稍良	否
王子千本中	軟	小	一、〇	一二二	良	否
強力	晩	全	中	三、二〇	一六六	良	倒
養老	全	硬	中	三、一〇	一六一	惡	否
六分	全	軟	大	三、七〇	二七七	良	倒
龜壽	全	硬	中	三、三〇	二〇六	惡	否
八重穗	全	全	小	三、〇〇	一九〇	稍良	否
神力	全	全	小	三、二〇	一六四	惡	否
福山	全	軟	大	四、〇〇	二〇七	良	倒
三國	全	硬	大	四、〇〇	二〇四	稍良	否
唐小僧	全	軟	大	三、七〇	二二四	稍良	否
百膳穗	全	全	中	三、五〇	一五三	良	倒

山田穗	全	稍硬大	四、〇〇	二〇七	良	否

深安郡試作地　擔當者　深安郡野上村三谷與三郎

田外側一田內側

種類名	供試莖總本數	被害莖本數	穗ニ異狀アルモノ	供試莖總本數	被害莖本數	穗ニ異狀アルモノ
山田穗	五八本	三本	○本	七三本	一一本	○本
百瞞穗	六一	○	○	七六	○	○
三國	五九	三	○	七三	一二	○
大石	七六	一三	一	一一七	五	○
唐小僧	六一	二	○	七七	一九	○
江戸	七七	○	○	一一一	○	○
都滿穗	五八	九	一	七五	六	○
都	六八	一七	○	八一	八	○
多賀穗	五五	五	○	一〇四	一	○
二本草	六二	一二	六	八八	四	○

同上　特性品質ニ關スル調査表

種類名	早中晩區別	稈 硬軟	稈 大小	稈 長短	一穗ノ平均粒數	米粒品質	刈取時稻ノ倒否
山田穗	晩	軟	大	三、五〇尺	一五三	良	倒
百膳穗	全	全	中	三、〇〇	二〇四	全	全
三國	全	全	大	三、二〇	二〇五	稍良	全
大石	全	全	中	三、〇〇	一三〇	惡	否
唐小僧	全	硬	大	三、七〇	一〇五	全	中
江戸	全	全	小	二、八〇	一三一	全	否
都滿穗	全	全	中	三、二〇	一六五	良	否
都	全	全	大	三、三〇	一九三	全	倒
多賀穗	全	軟	小	二、七〇	二〇二	全	否
二本草	全	全	大	三、二〇	一四三	稍良	倒
神力	全	硬	小	二、八〇	一三三	惡	否

以上三試作地ニ於ケル調査ノ結果ヲ總括シテ對照スレハ次ノ如シ

試作地名	供試莖總本數	供試總株數	一坪平均本數	供試莖總本數ニ對スル歩合	穗ニ異狀アルモノ、總本數	被害莖總本數	被害莖總本數ニ對スル歩合	一穗平均粒數
高田	一、四五八本	九五本	九七本	二、七五對	一九本	四一〇本	、四七粒	一五五粒
賀茂	一、四一七	一三〇	一〇九	三、三一	一六	四七〇	、三四	一八九
深安	一、七八二	一一〇	一、六〇〇	、七三	八	一三一	、〇六	一六九
合計	四、六五七	三三五	一、四〇〇	二、一五	四三	一、〇一一	、四二	一四七

之ニ由リテ見ルトキハ被害ノ歩合最モ多キハ賀茂ニシテ高田之ニ次キ深安ハ最モ少シ又穗ニ異狀ヲ呈セルモノヽ多キハ高田ニシテ賀茂深安之ニ亞ケリ蓋シ如斯現象ヲ呈セルハ一ハ本年氣候ノ關係上概シテ比較的寒冷ノ地ニ進ムニ從ヒ發蛾ノ時期平年ニ比シ甚タ遲クレタルニヨリ苗代及本田ニ於ケル驅除豫防上ノ効果顯著ナラサルモノアリシ爲メニ如斯結果ヲ得タルニアラサルナキカ

次ニ前表ニ基キテ稻ノ特性トノ關係ヲ調査スレハ左ノ如シ

稻ノ特性	試驗地名	種類名	供試莖總本數	被害莖總本數	供試莖ノ總數ニ對スル歩合	穗ニ異狀アル總本數
藁硬ク大ニシテ且ツ長キモノ	高田	三國、斗滿穗	二、九六本	五七本		二本
	賀茂	三國、山田穗、斗滿穗	二、一二	一〇二		八
	深安	唐小僧	六、〇六	二一		〇
	合計		六、〇六	一八〇	二、七〇割	八
藁硬ク大ニシテ且ツ短キモノ	高田	○				
	賀茂	二本草	一、四七	八		〇
	深安	都	一、四九	二五		〇
	合計		二、九六	三三	一、一一	〇
藁軟ク大ニシテ且ツ長キモノ	高田	雄町、江戸	三、〇三	八六		三
	賀茂	福山、唐小僧、六分	二、四六	一二七		五
	深安	山田穗	一、三一	一四		〇
	合計		六、八〇	二二七	三、三〇	八
藁軟ク大ニシテ且ツ短キモノ	高田					
	賀茂	三國、二本草	二、八二	三一		六
	深安		二、八二	三一	一、一一	六
	合計					

藁硬ク中位ニシテ且ツ長キモノ	高田	多胡増、白玉	二、二五	一〇〇		三
	賀茂	〇				
	深安	都満穂	一、三三	一五		一
	合計		三、五八	一一五	三、二〇	四
藁硬ク中位ニシテ且ツ短キモノ	高田	〇				
	賀茂	養老、龜壽	二、三三	七六		〇
	深安	〇				
	合計		二、三三	七六	三、三〇	
藁軟ク中位ニシテ且ツ長キモノ	高田	八反草	三、〇八	七四		一
	賀茂	百勝穂、強力	一、六九	九〇		三
	深安	〇				
	合計		四、七七	一六四	三、〇〇	四
藁軟ク中位ニシテ且ツ短キモノ	高田	〇				
	賀茂	〇				
	深安	百勝穂、大石	三、三〇	五		〇
	合計		三、三〇	五	、一五	

	高田	賀茂	深安	合計
葉硬ク小ニシテ且ツ長キモノ	八重穂	○	○	
	一、六二			
	四二			
				二、六〇
	二			
葉硬ク小ニシテ且ツ短キモノ	○	王子千本八重穂、神ノ神力、江戸		
	一、六二	四、一〇	四、六〇	八、七〇
	四二	八六	一	八七
				一、〇〇
	二	三	○	三
葉軟ク小ニシテ且ツ長キモノ	高田	賀茂	深安	合計
葉軟ク小ニシテ且ツ短キモノ	高田	賀茂	深安	合計
			多賀穂	
			一、五九	一、五九
			六	六
				、一〇
			○	

更ニ前表ニ依リ藁ノ硬軟長短ニヨリテ奈何ナル差異アルヤヲ調査シタルニ左ノ如シ

	供試莖惣本數	被害莖惣本數	被害ノ歩合
藁ノ硬ナルモノ	二、七二九本	五、八四本	二、一割
藁ノ軟ナルモノ	一、九二八	四、二七	二、二
藁ノ長ナルモノ	二、三二三	七、〇九	三、二
藁ノ短ナルモノ	二、三三四	三、〇二	一、三

以上ノ結果ニヨリテ之ヲ見レハ藁ノ長クシテ軟キ種類ハ短カクシテ硬キモノニ比スレハ被害ノ歩合多クシテ從來ノ實驗ト符合セリサレトモ藁ノ長短ヲ度ルニハ一定ノ尺度ニヨリテ區別スルコト容易ナレトモ硬軟ニ至リテハ主トシテ試作者ノ觸感ト倒臥ノ狀況ニヨリテ區別スルモノナレハ其識別甚タ難シ從テ實際ニアリテハ多少相違ナキヲ保セス

右調査ニ基キテ概論スレハ大約左ノ事項ヲ示スカ如シ

一藁ノ長キ種類ハ短カキモノニ比シテ害多シ

一本縣ノ風土ニアリテハ中稻種ハ晩稻種ニ比シテ其害稍多シ

一秋末ニ於テ螟虫害ニ罹リタルモノハ穗梗ニ變兆ヲ呈スルコト極メテ僅少ナリ

一風光ノ透通惡シキ田ノ內面ハ外側ニ比シテ其害多シ

明治三十五年三月二十八日印刷
明治三十五年三月三十一日發行

廣島縣農事試驗場
廣島市國泰寺村

印刷者　吉岡巖八
東京市神田區美代土町二丁目一番地

印刷所　三秀舍
東京市神田區美土代町二丁目一番地